
魔法先生ネギま！ & BAMBOO BLADE 逃走中

D-JUN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！& BAMBOO BLADE 逃走中

【ZPDF】

Z5092P

【作者名】

D-JUN

【あらすじ】

魔法先生ネギま！とBAMBOO BLADEのキャラがある
国に集まつた。再びゲームが始まる・・・

キャラ紹介（前書き）

登場キャラを紹介します！
今回も目標金額を載せます！

キャラ紹介

魔法先生ネギま！メンバー

相坂さよ

目標金額 20万円

明石裕奈

目標金額 96万円

浅倉和美

目標金額 96万円

綾瀬夕映

目標金額 30万円

和泉亜子

目標金額 60万円

大河内アキラ

目標金額 50万円

柿崎美砂

目標金額 96万円

神楽坂明日菜

目標金額 96万円

春日美空

目標金額 96万円

絡繆茶々丸

目標金額 20万円

釘宮円

目標金額 96万円

古菲

目標金額 96万円

近衛木乃香

目標金額 40万円

早乙女ハルナ

目標金額 96万円

桜咲刹那

目標金額 20万円

佐々木まき絵

目標金額 50万円

ネギ・スプリングファイールド

目標金額 20万円

BAMBOO BLADEメンバー

川添珠姫

目標金額 96万円

千葉紀梨乃

目標金額 96万円

桑原鞘子

目標金額 96万円

宮崎都

目標金額 96万円

東聰莉

目標金額 96万円

中田勇次

目標金額 50万円

栄花段十郎

目標金額 96万円

以上24名で

逃走中を行います！

キャラ紹介（後書き）

次はエリアの詳細です。

Hコア概念～ねじの図～（複数形）

今回のHコアです。

エリア詳細へおどきの国へ

逃走の舞台はおどきの国

おどき話の登場人物が

生活している国で

そびえたつお城と城下町

その周りには森が広がる。

お城には広い庭園、

宝物庫が存在する。

そして、

森にはおどき話の登場人物の家が何件か存在する。

この国には

赤ずきんちゃん

白雪姫

シンデレラが住んでいる。

もちろん、

その人物に関係する者も

住んでいる。

この国の南には門があり、

門番が2人おり侵入者を排除する。

そして、この門の堀に囲まれた所が逃走のエリアとなる。

ヒコア謹製～ねじ物の図～（後編）

いよいよゲームが始まる・・・

オープニングゲーム(1) (前書き)

恐怖のゲーム
…
再び…

オープニングゲーム(1)

ゲーム前、

とある場所に集められた

24人の逃走者たち・・・

恐怖の逃走劇がいま始まる・・・

「これよりゲームを始める」

不気味なアナウンスが流れる。逃走者に緊張が走る。

「君たちの前にある4体のハンターはボックスの中に閉じ込められている・・・」

「田の前にある色分けされた鎖は全部で24本・・・そのうち1本だけがボックスの扉を開放するハズレの鎖・・・」

「それを引くと4体のハンターが解き放たれゲームがスタートする・・・」

ハンターまでは20m

逃走者は1人ずつ鎖を引き抜かなければならぬ。

ハズレを引けば

ハンターが目の前の逃走者に襲い掛かる。

さらば、

24本の鎖のうち

5本の鎖にはドクロマークがついており誰かが

「」の鎖を引く、「」と逃走者たちは2mずつ前進しなければならない。
・
・

鎖を引く順番はくじ引きにより決定した。

刹那「…最後…」

明日菜「15…微妙ね…」

段十郎「23…」

都「22番ダン君の前ね…」

運まかせだ…

最初に鎖を引くのは…

和泉亜子…

亜子「いやあ…、怖い…」

裕奈「亜子ーー！何色？」

亜子「…白…」

まき絵「なんでー？」

亜子「…1番大丈夫そりやから…」

ハルナ「そう思わせてってあるみやね…」

亜子「引くよ～」

クリアか・・・
ハンター放出か・・・

亜子「引かれますー！」

ジャラツ！

亜子「…やつた～！」

れよ「見てる」ひちも怖いです～

裕奈「亜子、抜けたか…」

和泉亜子 クリア

残る鎖は23本

2番目に鎖を引くのは・・・

早乙女ハルナ・・・

ハルナ「うわ～、緊張するなあ～」

明日菜「パルは引かないような気がする・・・

夕映「同感です…」

聰莉「そりなんですか？」

勇次「それじゃあ、早乙女さん、何色ですか？」

ハルナ「ゼブクラーってみる！」

明日菜「…あからさまに怪しいじゃないその色…」

ハルナ「裏の裏つてやつよ。」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

ハルナ「行くよ。」

ジヤラツ！

ハルナ「よしぃー。」

和美「うわ～、これはかなりスリルあるよ。」

鞠子「ドキドキがとまらない。」

早乙女ハルナ クリア

残る鎖は22本

3番田に鎖を引くのは・・・

相坂さよ・・・

さよ「…怖いです～」

幽靈ですが、参加できるようにしたそりです。

和美「さよひやんー何色ー？」

さよ「私は……空色で……」

和美「なんでー？」

さよ「空が…きれいだから…」

木乃香「のほほんとするなあー」

さよ「そ、それじゃあ、引きます！」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

さよ「いきますーえい！」

ジャラシー

さよ「… れやつー！」

すでつ

こけた・・・

和美「さよちやん大丈夫？」

さよ「… 大丈夫です…」

和美「さよちゃんもクリアか…」

相坂さよ クリア

残る鎖は21本

4番目に鎖を引くのは…

大河内アキラ…

アキラ「…間近でみたら、本当に怖い…」

裕奈「アキラー！何色？」

アキラ「…私の好きな青にする…」

美砂「意外にこれがも…」

円「怖い怖い…」

アキラ「…引くよー」

クリアか…

ハンター放出か…

アキラ「引きますー！」

ジャラツ！

アキラ「やつた！…あつー！」

鎖にはドクロマーク！

裕奈「ええ～、勘弁してよ～！」

アキラ「ごめんなさい～！」

大河内アキラ クリア

しかし、

残る逃走者は2m前進・・・

残る鎖は20本

5番田に鎖を引くのは・・・

東聰莉・・・

聰莉「え～と～・・・」

都「引きわづな気がする・・・」

紀梨乃「否定できないねえ～」

鞘子「逃げる準備を・・・」

聰莉「ひどいです～！」

勇次「何色引きますか～！」

聰莉「…緑色で…」

勇次「なんですか？」

聰莉「勘です。」

都「逃げる準備をしましょー！」

聰莉「ひどいですー！」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

聰莉「いきますー。」

ジャラッ！

聰莉「やつたーきやつー。」

すでつ

こけた・・・

（2人囁）

珠姫「…また、こけた。」

都「本物にドジ…」

聰莉「痛い～…」

東聰莉 クリア

その後、

6番目の佐々木まき絵が
ピンク色の鎖を引いてクリア・・・
しかし、

ドクロマークがあつたため残る逃走者は2m前進・・・

続いて、

7番目の中田勇次が
灰色の鎖を引いてクリア・・・

8番目の釘宮円が
茶色の鎖を引いてクリア・・・

9番目の柿崎美砂が
銀色の鎖を引いてクリア・・・

しかし、

ドクロマークがあつたため残る逃走者は2m前進・・・

10番目の春日美空が
朱色の鎖を引いてクリア・・・

しかし、

ドクロマークがあつたため残る逃走者は2m前進・・・

11番目の川添珠姫が
赤色の鎖を引いてクリア・・・

そして、

12番目に鎖を引くのは・・・

近衛木乃香・・・

近衛木乃香・・・

木乃香「うーん、まだいっぱいあるなあ～」

刹那「お嬢様、慎重に…慎重にお選びください…」

木乃香「ほなら…」れ…藍色…」

刹那「な、なぜですか？」

木乃香「なんとなく…これにせなあかん気がしたんよ…いくよ～」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

木乃香「いくよ～！えい！」

ジャラツ！

木乃香「ほら、大丈夫やつた…」

刹那「良かつたです！」

近衛木乃香 クリア

残る鎖は半分の12本

オープニングゲームは
まだ終わらない…

オープニングゲーム(1) (後書き)

鎖はあと1-2本・・・
ハズレを引くのは誰だ・・・

木乃香が藍色を選んだのは
なかのひとに関係してゐるのかな?

オープニングゲーム(2)（前書き）

半分の鎖が無くなつた・・・
ハズレの鎖を引くのは誰だ・・・

オープニングゲーム(2)

残る鎖は12本

13番目に鎖を引くのは・・・

綾瀬夕映・・・

夕映「...どれを選んでも、危険です。半分の鎖が無くなつたわけですから...」

裕奈「で、何色ー？」

夕映「...私も裏の裏をかけて虎色にするです...」

明日菜「また怪しいやつー？」

夕映「...おそらく大丈夫なはずです...」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

夕映「いくですー！」

ジャラツ！

夕映「.....良かつたです...」

明日菜「えへつ、まだなの？」

ネギ「こんなにかかるんですか?」

綾瀬夕映 クリア

残る鎖は11本

14番田に鎖を引くのは・・・

千葉紀梨乃・・・

紀梨乃「うーん、11分の1だよね・・・」

鞘子「もう引バイはずなのに・・・」

茶々丸「...だれもひいてません...」

和美「もう来るでしょう。」

紀梨乃「よしひ、黄色にしよう。黄色引くよーー。」

裕奈「もう引くんですか?」

紀梨乃「うん、引く!」

クリアか・・・

ハンター放出か・・・

紀梨乃「せーーのーー!」

ジャラッ!

紀梨乃「セーフー！」

鞘子「うそーー！」

都「なんで、だれも引かないの～？」

千葉紀梨乃 クリア

残る鎌は10本・・・

15番目に鎌を引くのは・・・

神楽坂明日菜・・・

明日菜「よしぃー！」

裕奈「出たー！バカレッードー！」

明日菜「誰がバカレッードよーーー！」

ネギ「明日菜さん落ち着いてください。」

和美「明日菜ーー！何色？」

明日菜「え？じゃあ……あつ、オレンジー！」

裕奈「なんで？」

明日菜「オレンジは大丈夫じゃない？」

和美「絶対とは言いきれないないよ！」

明日菜「大丈夫よつ！」

クリアか・・・

ハノダ方出力

明日菜「いくよ！それっ！」

ジャラッ！

卷之三

全員「うわ――――――――」

START

ノンタムが放出された・・・

裕奈「ハンター来た！」

明日菜「ヤバイって！」

鎖を引いた明日菜が

1人の逃走者を追し抜き
ハンターの標的が変わった！

۱۷۰

代わりにハンターが
視界に捕らえたのは・・・

段十郎「はあつ…はあつ」

段十郎だ…

段十郎「あつ…！」
ボワン

栄花段十郎確保

残り23人

残り時間79分52秒

段十郎「…うそだろーー！」

ピリリッピリリッピリリッ

情報はメールで通知される

勇次「…確保！ダンくん…えつーー？」

ハルナ「男子3人のうちの1人捕まっちゃった。」

都「…ハンターめ（怒）」

裕奈「明日菜無事つてこと？」

珠姫「…もう始まってる…」

アキラ「始まつた！」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得できる・・・
それが・・・

run for money

逃走中

今回の逃走劇の舞台は
おとぎの国・・・

ほぼ円形のエリアの
中央には大きな城、
その周りにはおとぎ話の登場人物たちが住む町、
その外側には広大な森が
存在し、

南にある門の壁に囲まれている。

広さは東京ドームおよそ4個分。

エリア内の建物は
お城の1階部分のみ
入ることができます。

この中を24人の逃走者は
4体のハンターから逃げまわる。

亜子「えっ！もう一万円！？」

美空「どんどん増えてる。ヤバイ、すい！」

賞金は1秒で200円ずつ上昇。

80分間逃げ切れば何人でも96万円を獲得できる。

円「…自首はしない！絶対！」

更に、

このゲームは自首もできる。

エリア内の教会の

懺悔室に入り、

神父に自首を申告すれば、

その時点の賞金を獲得できゲームからリタイアとなる。

ただし、ハンターに捕まれば賞金は0。
彼らは脅威のスピードと

持久力を併せ持つ。

逃げ切るのは容易ではない！

森に隠れる夕映…

夕映「あまり動いてはダメです…」(以下)「この場所はじつとしてた方が
安全です。」

冷静な判断で状況を把握し
最善の策を考える…

城下町に隠れるまき絵…

まき絵「人がいつぱいいるし、ここなら平気かな？」

町の人にまきれる作戦のようだ……

その近くに……

さよ「……怖いです……」

さよだ……

さよ「どこに行つても怖いです……」

かなり怖がつてゐる……

そんなさよの近くにハンター……

さよ「どこかに隠れたい……」

ハンターはまだ気付いていない……

ピ――――

見つかつた……

さよ「怖い……來た！イヤ――――！」

まき絵「！來た！？」

まき絵もつらうて逃げる！

さよ「イヤツ！イヤツ！」

ボワン

相坂さよ確保

残り22人

残り時間75分07秒

まき絵「びっくりした！誰だつたんだろう？」

れよ「…怖かつた…速いですって…」

ピリリツピリリツピリリツ

裕奈「…なに！？メール？」

和美「さよちゃん捕まつた！」

鞘子「早い…もう捕まつた人が出た…」

森の道を歩く木乃香…

木乃香「ここはどやる？」

そこに…

美空「…木乃香？」

美空だ…

木乃香「美空ちゃん。」

美空「木乃香、あつちど'つ?」

木乃香「大丈夫やつたけど…」

美空「そう?メール見た?」

そんな2人の近くに…

ハンター…

美空「もう2人捕まつたじやん。」

木乃香「そやなあ」

美空「そやなあ～つて…！ハンター来た！」

木乃香「！えつ！？」

ピ――――

ハンターが視界に
捕らえたのは…

木乃香「来たつ！速い！」

木乃香だ…

木乃香「あかん！あかん！キヤツ！…」
ボワン

近衛木乃香確保

残り21人

残り時間 73分52秒

美空「やばかつた！ 木乃香は？ 捕まつた？」

木乃香「あ～ん、捕まつてもた～。はやい～！」

שְׁבָרְגִּינְשְׁטַדְלָה

明日菜「木乃香も確保！？はやすぎない？」

刹那「……お嬢様———っ！」

そのじゆ、

おどきの国にある異変が起つっていた・・・

オープニングゲーム(2)（後書き）

早くも3人の逃走者が
捕まつた・・・
そして、
おどきの国に事件が起る・・・

～赤ちゃん～ねぶるの図の事件～（前編）

ねぶるの図に起るの
事件とせん。

～赤ずきん～ ねじねの国の事件～

ある国の
森の中の一軒の家に
病氣のおばあさんが
おつましました。
ナニ」と、

「ハハハ ハハハ

匂を叩く音が・・・

？？」「ねじねのひやん。おかげんせいかが？」

キイツ

ねじねのひやん「...赤ずきんじやないか...」

赤ずきん「おばあひやん、お久しごつですか。」

訪ねてきたのは、
赤ずきんでした。

赤ずきん「お見舞いに來たです。」

ねじねのひやん「まあまあ、あつがとひ。」

赤ずきんはおばあひやんの家に入りました。

しかし、

それを見ていたのは・・・

魔女・・・

魔女「赤ずきんか・・・なら、あいつらだな・・・」

森の中にいたのは・・・

狼A「ああ～、腹へつたなあ・・・」

狼たちがいました。

狼B「飯食いに町に行くか。」

狼C「そつだな・・・」

魔女「待ちなさい・・・」

狼B「んつ？あつ、魔女！」

狼A「何のようだよ！」

魔女「お腹がすいたのだろう？・・・なら、赤ずきんのおばあさんの家に行くといい。」

狼B「えつ？あそこは・・・」

狼C「前に迷惑かけたし・・・なあ～」

狼たちは前に

腹ペコになつたとき

赤ずきんたちに

迷惑をかけてしまい

今もまだ気にしていました。

魔女「ふふつ、そうか。だが……」

魔女の目が妖しく光つた……

魔女「行つてもうひどい……」

狼たち「……アオーン……」

魔女「行け！狼ども！」

魔女がそういうと

狼たちはそのそと

おばあさんの家に向かいました。

魔女「ふふつ、あとは……」

別の場所には

猟師A「今日はこのへんにするか……」

猟師たちがいました。

猟師B「ああ。」

猟師C「じゃあ、準備を……」

あると、

ジャラッ！ジャラッ！ジャラッ！

獵師B「…」

獵師C「な、なに…？」

獵師A「…なんだ…？」

獵師たちが鎖で
縛られてしましました！

魔女「お前たちがいては、私の計画が危ないからな…」

獵師A「…魔女！」

魔女「そこでおとなしくしてもらひぞ…」

獵師B「待て…」

獵師C「何を企んでる…」

魔女は何も言わず去つてしましました…

そして、

おばあさんの家の前にか
いつの間にか

3つのハンターボックスが設置されていた・・・

「赤ちゃんねるの団の事件」（後書き）

操られた狼たち・・・

身動きができない獵師たち・・・

そして、

おばあさんの家の前に設置されたハンターボックスの意味とは？

MISSHOZI (1) (前書き)

ミシシピンが始まる・・・

MISSION 1 (1)

ピココシピココシピリコシ

明日菜「…な」「…な」「…？」

メールだ・・・

裕奈「来たー! ミッシュヨンだ。」

美空「『森のおばあさんの家に3つのハンター・ボックスが設置された。』」

勇次「『そのおばあさんの家に3匹の狼たちが向かっている。』えつ? ?」

円「『残り60分になると狼1匹』」とハンター・ボックスを1つ開けてしまつ。最大3体増えるつてこと?」

鞆子「『阻止するには、森の中にはいる猟師に狼を捕まえてもらわないといけない。』」

まき絵「『しかし、猟師は鎖で縛られているため、自分たちがもつ鍵で鎖を解かなければいけない。』…』の鍵?」

美砂「『ただし、鎖の色と同じ色の鍵じゃないと鎖は解けない。気をつけたまえ。』」

ハンター放出を阻止せよ！

3匹の狼が魔女に操られ
おばあさんの家に向かう。
おばあさんの家の前には

3つのハンター・ボックスが設置されており、
残り60分になると、

狼1匹で1つのボックスを開放してしまい、
最大3体のハンターが

エリアに放出されてしまう。

これを阻止するには、

森の中にいる鎖で身動きがとれない猟師に捕まえてもらうしかない。

ただし、鎖は逃走者の持つ鍵で解けるが、
鍵と同じ色の鎖しか解くことができない。

なお、猟師は

おばあさんの家の
裏の方にいるが、
逃走者はそのことを
知らない・・・

逃走者が持つ鍵の色は
このようになつている・・・

赤

相坂さよ（確保）
綾瀬夕映
柿崎美砂

絡繆茶々丸

近衛木乃香（確保）

佐々木まき絵

千葉紀梨乃

東聰莉

青

明石裕奈

和泉亜子

神楽坂明日菜

釤富円

早乙女ハルナ

ネギ・スプリングフィールド

桑原鞘子

中田勇次

黄色

朝倉和美

大河内アキラ

春日美空

古菲

桜咲刹那

川添珠姫

栄花段十郎（確保）

宮崎都

現在残りおよそ72分
およそ12分後に

ボックスの扉が開放されてしまつ。

美空「…誰かやるでしょ。」

和美「…誰かやるつて」

鞘子「行きたくないなー」

美砂「絶対行かない！」

ミッシュヨンに行くか行かないかは逃走者の自由だ・・・

明日菜「行こー!」

勇次「7体になつたら厳しーし…どこかな?」

裕奈「やらないと!」

紀梨乃「獵師つてどこかな?」

ネギ「行かないと、危ないですね。」

円「7体になつたらシャレにならないし。」

刹那「…お嬢様の分までやります。」

ミッシュヨンに向かつのは、

裕奈、明日菜、円、刹那、ネギ、紀梨乃、勇次の7人。

残り60分までに
猟師を助けることは
出来るのか？

円「…猟師ってどこにいるの？」

猟師を探す円・・・

円「森が結構広い…！ハンターだ！」

猟師ではなくハンターを見つけた円・・・

しかし、ハンターは
気付いていない・・・

円「…ヤバイ。」

ピ――――

気付かれた・・・

円「！ヤバイ！来た！」

ピ――――

逃げても追い続けるハンター・・・

円「ヤバイーっ！イヤッ！」

ボワン

釘宮円確保

残り20人

残り時間70分41秒

円「悔しいっ！速すぎだつて、ハンター！」

美砂「！円が捕まつた！」

裕奈「ぐぎみー、ミッショングループに向かつて捕まつたのかな？」

ミッショングループは危険と

隣り合わせ・・・

動けばハンターに

見つかる可能性も高くなる・・・

ミッションをクリア出来るのか・・・

MISSION 1 (1) (後書き)

残り20人・・・
クリアすることができるのか?

MISSION 1 (2) (前書き)

ハンターの追加を
阻止できるのか・・・

MISSHOZU (2)

森の中を彷徨う刹那・・・

刹那「…獵師はいつたいど…」

刹那が現在いる場所は

獵師がいるところの近く・・・

気づくのか・・・

畠子「…ミシショングンどなしよ…」

ミシショングンに行くがどうか歎む畠子・・・

彼女のいる場所と

獵師のいる場所は正反対だ・・・

古菲「…わつ…?」

まき絵「…びくつした…!」

古菲「それはこいつのセコフアル。」

森の中で出会ったバカピンクとバカイエロー・・・

まき絵「ミシショングンどするへ。」

古菲「近くだつたら行くアル。」

そんな2人の近くに

ハンター・・・

ピ――――

見つかつた・・・

まき絵「でも、場所！ハンターだ！」

古菲「来たアル！！」

二手に分かれて逃げる2人・・・
ハンターの視界には・・・

まき絵「ーー」つち来たーーつーー

まき絵だ・・・

まき絵「速い！.. キヤツ！」

ボワン

佐々木まき絵確保

残り19人

残り時間69分57秒

古菲「まき絵は？どうなつた？」

まき絵「悔しいよ～～～」

アキラ「…また？また絵…？」

鞆子「また絵が！？捕まつた！？」

古菲「やつぱり捕まつたアル…」

美砂「ミッションはまづこつて…すぐ捕まるよ…」

鞆子「…ハンターいない…よね…」

城下町に隠れる鞆子…

自分の身が最優先だ…

聰莉「…行こうかな…行つた方がいいよね…」

ミッション参加を決意した聰莉…

聰莉「…ここは城下町…だけど、城下町のどこか…わからない

（泣）

先がおもいやられる…

刹那「…むつ、あれは？」

何かを見つけた刹那…

刹那「！獵師か！？」

獵師だ・・・

刹那「見つけ……龍宮……楓……超……？」

獵師A「そこの人、これを解いてくれないか？」

刹那「……いや、龍宮なにを……」

獵師B「こいつを解いてくださいらないか？」

刹那「楓もなにを……」

獵師C「いや、こいつを……」

刹那「……超……まで……」

獵師B「……さつきから……龍宮とか楓とか……誰のことですか？」

刹那「……あなた方が……獵師……ですか？」

獵師C「そうです。」

刹那「鍵を持っているが、黄色の鎖しか解けない……黄色の鎖は？」

獵師C「わたし。」

刹那「では、いま鎖を……」

力チャツ
ジヤラツ！

黄色の鎖 解錠

獵師C「これで動けるー。」

刹那「あ、それで、いま3匹の狼が森のおばあさんの家に向かっているんです。」

獵師A「なにつー!?」

獵師B「あいつら、また?」

獵師C「よし、私たちにまかせる。といつても、網鉄砲一発しか使えないから、1匹しか捕らえられないが…」

刹那「充分です。お願いしますー。」

獵師C「まかせろー。」

刹那「……よしつー。」

刹那が獵師一人を自由にしたため、狼を捕まえに行く！

獵師C「狼よーへりえーー。」

パンツ

狼C「アオツーーー。」

狼が網に絡まつたため

前に進めなくなつた！

ハンター1体封印・・・

残りは2つ・・・

刹那「……ふう。あとほ旨を信じよつ……」

獵師B「…助け…来るかな…」

獵師A「…どうかな…」

ミッションに挑む勇次・・・

勇次「……森が広すぎる。獵師はビリビリいるんだろう。」

まだ獵師を見つけてない・・・
そこに・・・

勇次「！…ハンターだ…」

獵師ではなく、

ハンター見つけてしまつた・・・

勇次「……………いたか…」

ハンターに気づかれなかつたようだ・・・

勇次「危ない危ない…気をつけないと…」

ハンターは現在4体
ミッション終了まで
あと7分・・・
クリアできるのか・・・

MISSION 1 (2) (後書き)

赤の鎖と青の鎖を解錠してミッションをクリアする者は現れるのか？

獵師は

龍宮真名

長瀬楓

超鈴音の3人です。

ほかの登場人物も
ゲストとして
出るかもしれません。

MISSION 1 (3) (前書き)

獵師はあと2人・・・
鎖を解く者は現れるのか・・・

「……やつと、森に着いた。」

ようやく森に出た聰莉・・・

ネギ……見つかってない……どうはいるんでしょう?」

ネギも獵師を探すが、
獵師のいる場所まで
まだまだ距離がある。・・・

明日菜「…もーーつーーどーにいんのよ！獵師！」

見つからぬいためイライラしている明日菜・・・
そこへ・・・

裕奈「明日菜」

明日菜「！びっくりした！ 裕奈じゃない。」

裕奈「びっくりした〜じゃなくて、見つかるよ。大声出したら…」

明日菜「…そんなに大きい声出してた？」

裕奈「気をつけなよ。ただでさえバカなんだから」

明日菜「バカ言つ…ムグッ」

裕奈「大声出すなつてば！」

明日菜「ムムン(ゴメン)」

紀梨乃「ん~、木ばつかだね~」

辺りを探す紀梨乃・・・

こちらも獵師との距離は遠い・・・

ハルナ「だれもやつてないのかな…」

城の庭園にいたハルナ・・・

ハルナ「…行つてみ…！ハンターだ！」

しかし、ハンターは
気付いていない・・・

ハルナ「…みんなを信じるか…」

行かないことを決めた・・・

勇次「！いた！獵師だ！」

ようやく猟師を見つけた勇次・・・

猟師A「！そこの人！」

猟師B「鎖を解いてくれないか？」

勇次「はい！」

勇次がもつ鍵は青・・・

勇次「これで・・・」

力チャツ

勇次「よしつ！」

ジャラツ！

青色の鎖 解錠

猟師B「自由になつた！」

勇次「それで・・・」

猟師B「事情はわかつてゐる。まかせろー！」

勇次「お願いします！」

勇次が猟師一人を自由にしたため、狼を捕まえに行く！

獵師B「いた！」

狼発見！

獵師B「くらえつ！」

パンッ！

狼B「アオ！」

狼が網に絡まつたため、
前に進めなくなつた！
ハンター1体封印・・・

残りは1つ・・・

勇次「やつたぞ！」

獵師A「1人になつてしまつた・・・

ピリリッピリリッピリリッ

裕奈、明日菜「！！」

明日菜「なに？今度は・・・」

裕奈「…途中経過。」

鞘子「『桜咲刹那と中田勇次の活躍により、黄色と青の鎖が解かれ

2体のハンターを封印した。』』

都「『しかし、赤の鎖が解かれていないため、このままだとハンターが1体放出されてしまつ。急ぎたまえ。』『赤？赤つてだれ？』

現在、赤の鍵を持つのは

綾瀬夕映

柿崎美砂

絡繆茶々丸

千葉紀梨乃

東聰莉の5人・・・

ミッショソに向かつてゐるのは、千葉紀梨乃と東聰莉の2人・・・

紀梨乃「ヤバイなあ」・・・

聰莉「え、まづ」「バ」「？」

裕奈「明日菜...私の鍵だとミッショソは無理だわ。」

明日菜「...明日菜も？」

裕奈「...明日菜も？」

ネギ「...青はもう大丈夫なんですね。」

青の鍵を持つ

明石裕奈

神楽坂明日菜

ネギ・スプリングフィールドは探すのをやめた・・・

美空「やつぱ誰かやつてた…赤だけか~早くやつてほしいなあ~」

そんな美空の近くに・・・

ハンター・・・

美空「…うわつ…?」

見つかった・・・

美空「ヤバイ!」

ピ――――

美空「ヤバイヤバイヤバイ!…!…」

ピ――――

なんとハンターを
振り切った・・・

さすがは陸上部・・・

美空「ハアツ…危なかつた~」

聰莉「赤の鍵だけ…急がないと、あと4分切ったし」

獵師を見つけられない聰莉・・・
おまけに・・・

聰莉「…」（泣）

迷つたようだ・・・

聰莉「…とりあえず…」（泣）

美空を追つていたハンターに見つかった・・・

聰莉「イヤツ…ギャフツ！」

またこけた・・・

ピ――――

ボワン

東聰莉確保

残り18人

残り時間63分27秒

聰莉「ふえ～～ん（泣）」

踏んだり蹴つたりだ・・・

都「東聰莉確保…ドジつて捕まつたんじゃないでしょうね。」

そのとおりだ・・・

夕映「…まだダメです。動くのはもう少しあとです。」

赤の鍵を持つ夕映…
まだ動かない…

茶々丸「……向かうにしてもおやりく間に合わないでしょ」。

茶々丸は完全にあきらめているようだ…

現在、

赤の鍵を持つのは4人…
その中でミッションに
向かっているのは
千葉紀梨乃1人だけ…

ミッション終了まで

あと3分…

果たして、間に合つか…

MISSION 1 (3) (後書き)

あと3分・・・
紀梨乃は間に合つのか・・・

MISSHOZI (4) (前書き)

ハンター ボックスは
あと一つ . . .
しかし、
ハンター 放出まで残り3分 . . .
間に合うのか . . .

MISSION1(4)

紀梨乃「…いなーなあ。」

赤の鍵を持つ紀梨乃・・・
猟師を探すが・・・

紀梨乃「いじじやないのかなあ…」

見つからない・・・
そこに・・・

和美「…千葉さん…だっけ?」

和美だ・・・

和美「…千葉さん?」

紀梨乃「あつ、えと…朝倉さん?」

和美「なにしてるんですか?…ミッションですか!?」

紀梨乃「うん。」

和美「え〜、もう時間ないですよ。」

紀梨乃「場所さえわかれば…」

そこに忍び寄るハンター・・・

和美「いや、間に合わないですって。」

ピ――――

紀梨乃「でも……！ハンターだ！」

和美「ハンター！」

見つかった・・・

和美「最悪！」

紀梨乃「マズいマズい！」

2人の逃げる先に・・・

美砂「……逃げてる？」

美砂だ・・・

美砂「…こっち来た！」

つられて逃げる美砂・・・

しかし、

ハンターが視界に捕らえたのは・・・

和美「ハアッ…速い！速い！」

和美だ・・・

和美「…うわっ…!!」

ボワン

朝倉和美確保

残り17人

残り時間61分10秒

和美「話に気をとられてた…くやし…!!」

明日菜「！朝倉確保された！」

裕奈「…うそでしょ…？」

ミッショソ終了まで1分

紀梨乃「ハアッ…ハアッ…」

紀梨乃は無事に逃げた・・・

紀梨乃「…もう…無理だ…」

しかし、あきらめた・・・

美砂「ハアッ…びっくりしたよ、もつ…」

美砂も無事逃げのびた・・・

美砂「……えつ！？」

美砂が逃げた先はなんと！

美砂「…龍宮さん！？」

獵師のいる場所だった！

獵師A「すまない。そこの人！鎖を！」

美砂「えつ！獵師さん？は、はい。」

美砂も赤の鍵を持っている！

ミッション終了まで30秒

美砂「これで…」

力チャツ

ジヤラツ！

赤色の鎖 解錠

獵師A「助かつた！」

美砂「え、あ…」

獵師A「あとはまかせろ！」

狼はすぐそこだ…

獵師A「覚悟！」

パンツ

狼A「！アオツ！」

狼が網に絡まつたため
前に進めなくなつた！
ハンター全て封印・・・

ミッショングリリア

ペココッペココッペコリッ

鞘子「！わつ！」

メールだ・・・

アキラ「『ミッショングリリア』

ハルナ「『柿崎美砂の活躍により、』

明日菜「『赤色の鎖を解きハンターが全て封印された。』柿崎やつ
たんだ！」

珠姫「… ありがとうございます。」

古菲「すごいアル～」

美砂「…ミッションやるつもりなかつたのに…次はやらない。」

当の本人は」の調子だ…

美砂「あの狼・小太郎くんだった氣がする…ちりひと家のなか見ただけ…史ちゃんいたような…」

そして、

おばあさんの家の前では、

獵師C「お前たち…びりしげ、またこんなことを…」

狼たち「…………」

獵師A「黙つてたら何もわからないだろ?…」

狼A「覚えてないんだ…」

獵師B「…なに?…」

狼B「俺たちおばあさんの家に行くつもりなんてなかつたんだ。」

狼C「俺たちも驚いてるんだよ!」

獵師C「そんな嘘…」

獵師A「待て、嘘ではなさそうだ。」

獵師C「えつ…?」

獵師A「あんなにノロノロと獲物を狙つ狼がどこにいる？」

獵師C「確かに…」

狼A「すまない」とした。本当に…。

すると、

ガチャツ

赤ずきん「あれ？ 狼さんたち…どうしてここに？」

狼A「あ、赤ずきん…」

グウ～～～

狼たち「あ…」

赤ずきん「アッハハ、お腹がすいたの？これから、『』飯つくるの。いつしょにたべよ。」

狼A「え？ いいのか？」

赤ずきん「うん…」

狼B「前に…食料奪おうとしたのに？」

赤ずきん「いいよ…」

狼「…迷惑じゃないのか?」

赤ずきん「はい、町へ・獵師さん達も…」

おばあちゃん「あい、じややかだと思つたが…お見舞いに来ててくれたのかい?」

狼A「…えつと」

獵師B「わのとねつですか。」

狼たち「…」

獵師C「はこつが、入つづりあひじてたので…」

おばあちゃん「まあまあ、じやあ、じりり。あがつてちよつだー。」

獵師A「はい、じりあるんだ?」

狼たち「…じやあ、おじやましあす。」

いづして、

赤ずきんは無事に・・・

そして、

狼たちも赤ずきんたちと

仲良くなれました。」

しかし、

魔女「…おのれ」

それを快く思わない魔女・・・

魔女「…なら次は…」

魔女の視線の先には
いつたいだれが？

MISSION 1 (4) (後書き)

赤ずきんの物語は無事・・・
しかし、

魔女は新たなターゲットを狙う・・・

狼は

村上小太郎こと
犬上小太郎です。
赤ずきんは
鳴滝史伽です。

牢獄DEAターク1（前書き）

そのころ、
牢獄の中は・・・

牢獄DEトーク1

おとぎの国の中にある
お城付近に設置された

牢獄では・・・

和美「ハンター速すぎだつて! マシーンだよ、本当に!」

まき絵「気持ちはわかるつて!」

木乃香「ひからも同じやからなあ。」

円「森の中けつひつ多いんじやない? ハンター。」

さよ「森の中で捕まつた方は?」

木乃香「はい」

円「はい!」

まき絵「はい。」

和美「...はい」

段十郎「じゃあ、4人森の中で捕まつたわけか。」

さよ「えー...じゃあ危ないですよ。」

そこへ・・・

段十郎「あつ、やつと来た。」

聰莉「……」

聰莉がよつやく牢獄に到着・・・

和美「ずいぶんボロボロですナビ……」

聰莉「ふえ～～ん、森の中で迷子になつて、ハンター見つけたけど
転んで……」

円「捕まつたんですか…」

聰莉「セ～～」

木乃香「散々やつたわけや。」

和美「やつぱ、森は危険じゃない？」

さよ「やつじすねえ…」

美空「森を抜けて、お城の方に行いつかなかな？」

お城の方を目指す美空・・・

美空「あつちの方が安全じゃないかな？」

そう言つてお城に向かう・・・

ハルナ「……また来た」

城の庭園にいるハルナ・・・
またしてもハンターを見つけた・・・

ハルナ「……ふう。危ない…」

気づかれなかつたようだ・・・

ハルナ「ここ危ないのかなあ…」

珠姫「…ここに隠れよう。」

城の近くに来た珠姫・・・

しかし、

先ほどハルナが見たハンターが近くに・・・

珠姫「……！来た…」

見つかった・・・

珠姫「……」

ピ――――

和美「あつ、誰か走つてる！」

聰莉「タマちゃんだ！」

段十郎「逃げる——つ！」

ピ———

珠姫「……フウ……」

なんとハンターを振り切った！

これで美空に続いて2人目だ・・・

珠姫「…休めない」

美空「着いた！城下町！」

城下町にたどり着いた美空・・・

美空「お城お城」

しかし、

先ほどハルナが見つけ、

珠姫を追っていたハンターが美空に近づく・・・

美空「お城お城おし！ろ——つ——！」

見つかった・・・

美空「ヤバイヤバイヤバイ！」

一度ハンターを振り切った美空・・・

全度は

美空「……速い！ ヤバッ、あ——つ！」

水經注

残り16人

残り時間54分01秒

美空「お城……行きたかつた……」

たどり着けず
・
・
・

アキラ「春日美空確保！」

明日菜「えっ、美空も捕まつた！？」

裕奈「えへ、ハンターどんだけ速いの？」

その上

魔女がまた動き出した・・・

魔女がまた事件を起します・・・

～白雪姫～おひなの国の事件～（前書き）

魔女の次のターゲットは・・・

～白雪姫～おひめの国の事件～

ある国の
森の中に一軒の家に
肌が雪のよひに白く美しい少女がおりました。
名前を白雪姫とこころました。

白雪姫「… もうすゞ、」の國ともお別れね…」

少しあえ、
毒りんごを食べてしまつたといふをとある國の王子に助けてもらつて
その縁で
こゝしょに暮りかになつたのです。

白雪姫「…… (* - - *) 」

とても辛せやうでした…

かねて、

「ハハハハハハ

白雪姫「… - ? はい?」

ガチャツ

白雪姫「… あなたですか?」

配達員「すみません。お届け物です!」

白雪姫「ひやつー!?

配達員「あいや? すこません。驚きましたか?」

白雪姫「…はー…す、ぐく…」

配達員「まあともかく、お畠ナモのドクーピングー。」

白雪姫「は、はあ…」

配達員「しつれいしました~」

バタンツ

白雪姫「…行っちゃった…」これはなんでしょ!?

木箱には…

白雪姫「わあつ、果物がたくさん!」

おこしそうな果物が
いっぱいありました。

白雪姫「おこしそう…あつ、でも…りんごは…」

あのとき以来、りんごは
苦手な様子。

白雪姫「…? これはなんでしょ!?

白雪姫が見つけた果物は
見たことがないものでした。

白雪姫「はじめて見ます。どんなお味なんでしょう。……いただき
ます。」

シャクシ

その果物を一口食べました。

白雪姫「……甘くておいしい……あ……れ……？」

白雪姫の様子がおかしいです。

白雪姫「……急……に……ねむ……く……」

バタンツ

白雪姫は倒れて眠ってしまいました。

すると、

「? ? 「ふふふつ、たべたわね。」

そこに現れたのは
先ほどの配達員・・・

いや、

魔女「じゅーん!」

配達員は魔女だった！

魔女「あなたが食べたのは、スヤスヤの実。食べたら最後、永遠に夢を見続けるのよ。夢の中でお幸せに…」

そう言つと、

魔女は去つていきました。

そして、

白雪姫の家にあつた
ゲームタイマーが
カチッ…カチッ…
止まつた…

～白雪姫～おひかの國の事件～（後書き）

魔女の罠にかかり

永遠の眠りについた白雪姫・・・

第2のミッションがはじまる・・・

MISSION 2 (1) (前書き)

第2のミッションが
はじまる・・・

MISSZONE (1)

ピココロッピココロッピコロッ

鞠子「わっ！」

メールだ・・・

鞠子「…ミラションドー！」

裕奈「『白雪姫が魔女によつてスヤスヤの実を食べてしまい永遠の眠りについてしまつた。』んつ?どうじうこと?」

夕映「『その影響でゲーム時間を表すタイマーが停止してしまつた。』!えつ?」

亜子「!ほんまや、ついこてへん」

美砂「うそでしょー!」のままではゲームは終わらず自首するかハンターに捕まるのを待つしかない。』」

珠姫「…阻止するには、城下町の薬屋から薬をもらつて白雪姫に飲ませなければならぬ。』」

茶々丸「…大変なことになりました。」

MISSZONE 2

ゲーム時間を動かせ！

白雪姫が魔女の罠にはまりスヤスヤの実を食べてしまつたため、

永遠の眠りについてしまつた。

その影響でタイマーも眠りにつき、ゲーム時間が止まつてしまつた。

再び時間を進めるには

城下町の薬屋に行き

薬をもらい白雪姫に

飲ませなければならぬ。

いま現在、

残り時間50分・・・

ミッションをクリアしない限り、時間が動くことはない・・・

明日菜「ヤバイよね。これ・・・」

裕奈「行かなきや、ダメでしょー！」

古菲「ひどいアル！薬屋つてビーハル？」

亜子「これは行かなー！」

アキラ「……薬屋を探さないと。」

夕映「……動くです。」

珠姫「行きます。」

都「危ないかもしねー……けど、行く！」

ミッションに参加する者が続々あらわれる・・・

美砂「私は…やらない！絶対ヤダ！」

相変わらずの美砂・・・

ハルナ「え、行きたくないなあ。ハンターに見つかるって…」

だが、ハルナの近くに
またハンター・・・

ハルナ「……！またきた…」

今度は・・・

ピ――――

見つかった・・・

ハルナ「！来た！！」

逃げ切れるのか・・・

ハルナ「は、速い！」

ピ――――

ハルナ「速いって！速いって――つ――！」

ボクシング

早乙女ハルナ確保

残り15人

残り時間 50分00秒

（傳上中）

ハルナ「何よ！あの速さ……えへへへ……」

夕映「ハルナ捕まつたですか！？」

明日菜「パル捕まつた！」

裕奈「うえー!? マジー!?」

ゲーム時間は停止している・・・

卷之三

レノンの歌

ケリアしなじといけなし・・・

MISSION 2 (1) (後書き)

禁断の時間停止ミッション・・・
クリア出来るのか・・・

MISSION 2 (2) (前書き)

薬屋に向かう逃走者たち・・・
無事にたどり着けるのか?

MISSION 2 (2)

城下町に向かう明日菜と裕奈・・・

明日菜「…ねえ、城下町ってどっち?」

裕奈「こっち!」

明日菜「…地図がわかんない。」

地図がよめない女・・・

亜子「町や!」

城下町の近くの森にいた亜子・・・
無事にたどり着いた・・・

亜子「薬屋は...」

今度は薬屋を探さねばならない・・・

アキラ「……」

アキラの田の前には町の入り口・・・

しかし、

アキラ「ハンターがいる…」

ハンターが近くにいるため入れない・・・

古菲「薬屋はー? どー? ワ。」

薬屋を探す古菲・・・

古菲「…どー? アル?」

・・・いま通りすぎたところだ

明日菜「裕奈! はやくー!」

裕奈「よく動けるなー」

2人の近くにハンター・・・

明日菜「はやくー」

裕奈「わかつて…! ハンターだー!」

見つかった・・・

明日菜「来たー! 来たー!」

裕奈「来たー! 来たー!」

ハンターが視界に捕らえたのは・・・

裕奈「ヤバイ、速い！」

近くにいた裕奈だ・・・

裕奈「…」

明石裕奈確保

残り時間 50分00秒

(停上中)

明日菜一 裕奈捕まつた！？どうなつたかな？」

裕奈 ああ～～！～もう少しきつ～～捕まつた～～つ～～くやし～～つ

亞子「えっ！？ 裕奈も捕まつた！？ アキラ、大丈夫かな？」

アキラ「……まだいる。」

文選

ピリリリッ:

アキラ「！！」

電話の音でハンターが気づいた！

アキラ「ヤバイ…」

亜子「…あれ？出えへん…」

アキラ「わっ！速い…！」

ピ――――

アキラ「キヤア！」

ボワン

大河内アキラ確保

残り13人

残り時間50分00秒

(停止中)

アキラ「…」

ピッ

亜子「あっ、アキラ？」

アキラ「いま捕まつた…」

亜子「えつ…！……電話したから？」

アキラ「…氣にしないで、がんばつて。」

西子「…わ～、悪い」としたて、ゴメン、アキラ…」

鞆子「どんどん捕まつてる…」

ネギ「どうしましょ…」

夕映「やつと町に着いたです。」

よつやく動いた夕映…

町に到着…

そこに…

夕映「くーふえさん…」

古菲「夕映！」

バカブラックとバカイエローが出会つた…

夕映「薬屋に行つたですか？」

古菲「見つからないアル。」

さつき通りすぎた…

夕映「もう一回探しに行きましょ…」

すぐ近くにある・・・
バカレンジャー気づかず・・・

森の中に隠れる鞄子・・・

鞄子「・・・怖い。もう首しようかな〜?」

鞄子がいる場所は教会に近いとこだ・・・

鞄子「・・・もう少しねばらつかな?」

首に揺れ動く鞄子・・・

刹那「.....いる。」

ハンターを見つけた刹那・・・

刹那（へたに動けないな...）

だが、後ろから・・・

ペーーーー

刹那「...しまった!」

ハンター・・・

この騒ぎでもう一体のハンターも気づいた！

刹那「油断した！」

逃げ場がなかつた・・・

ボワン

桜咲刹那確保

残り12人

残り時間50分00秒

（停止中）

刹那「……1体に気をとられてた…未熟だ」

明日菜「……うそつ！刹那さんも捕まつた！」

勇次「……」それで半分が捕まつた。」

夕映「……」じゃないですか？」

古菲「えつ！？」アルか？」

そこが薬屋だ・・・

夕映「入りましょう。」

ギイツ

薬屋「いらっしゃい」

夕映「あの〜、薬が欲しいんです。」

薬屋「どこのお薬で？」

古菲「眠りから覚める薬アル！」

薬屋「眠り?」

夕映え、スヤスヤの実の眠りからです。

古菲「それアル！」

薬屋「あ～～～」

夕映、古菲「？」

薬屋「いま……無い。」

夕映、古華、

逃走者がどんなふうに捕まる・・・

そして、

薬がないことはどうこいつらなのかな?

薬が無いとは?

ミッシュモンは

いつたいどうなつてしまつのか?

夕映「薬がなこって並んでるのですか?」

薬屋「…じつは先ほど」

時は少しさかのぼる…

ギイツ

薬屋『いじりつしゃ』

??.『すみません。ウカ力の薬をください…あるだけ』

薬屋『あるだけ!?.いつたこじつしたんですか?』

??.『じつはやつや子供たちがスヤスヤの実をたべてしまつて…』

薬屋『そつや大変だ!..今すぐ用意します。』

??.『ありがと!..』

(ひやけ)

薬屋『……はい、じつや。配達員さん。』

配達員『助かりました。』

薬屋「とこづ」とがあつまして…」

古菲「えへ、どひするアルヘ//シションクリアできないアル！」

薬屋「あ、いえ、材料さえあれば、すぐ作れます。」

夕映「！材料とは何ですか？」

薬屋「ウエカの花です。」

夕映「どのような花なのですか？」

薬屋「花弁は真っ白で、葉は深い緑色をしていて、上から見ると星さまの形をしています。」

夕映「それはど？」

薬屋「うへへん、森の花畠にならへたとあるせー…」

夕映「いくつ必要ですか？」

薬屋「一本あれば大丈夫です。」

夕映「わかったです！」

古菲「わかったアル！」

いま薬屋には
魔女によつて

スヤスヤの実の眠りを覚ますための薬、
ウェカの薬がない・・・

作るには

ウェカの花1本が必要で
森の花畠にしか生えていない・・・
花畠は森の北部にある・・・

いま現在、

森の北部にいるのは、

千葉紀梨乃と
柿崎美砂の
2人だ・・・

さらに花畠にもつとも近いのは・・・

美砂「きれいな花が咲いてるなあ・・・」

柿崎美砂だ・・・

しかし、

ミッショソに花が必要であることを知っているのは・・・

綾瀬夕映と

古菲の

2人のみ・・・

薬屋を出た2人・・・

古菲「今すぐ花畠に行くアル！」

夕映「待つです！ぐーふえさん！場所知ってるですか？」

古菲「……知らないアル！」

夕映「なので、電話して聞いてみましょ。」

古菲「わかつたアル！」

夕映がかけた相手は・・・

ピリリリッ・

ネギ「んつ？」

ネギだ・・・

ネギ「夕映さんから？」

ピッ

ネギ「どうしました？」

夕映「ネギ先生…手短に話します。森の花畠の場所を知っていますか？」

ネギ「花畠ですか？いえ…」

夕映「そうですか…」

ネギ「花畠探ししましょうか？」

夕映「本当ですか！？」

ネギ「はい！」

夕映「白くて星の形をしてる花がミツショノに必要なんです。」

ネギ「わかりました。ありがとうございます！」

ピッ

一方、古菲がかけた相手は・・・

ピリリリッ・

茶々丸「・・・？」

茶々丸だ・・・

ピッ

茶々丸「・・・はい。」

古菲「茶々丸？」

茶々丸「古菲さん。どうしました？」

古菲「花畠の場所を知つてたら教えてほしいアル。」

茶々丸「・・・すみません。私は知りません。」

古菲「そうアルか。もし見つけたら教えてほしいアル。」

茶々丸「わかりました。」

ピッ

夕映「どうでしたか?」

古菲「ダメアル…そつちは?」

夕映「こつちもです…」

古菲「私探すアル!…じつとしてられないアル!…」

夕映「えつ…あつ!」

走つてつた古菲…

夕映「大丈夫でしょうか?…」

鞘子「…自首しようかな。」

自首を決めた鞘子…

鞘子「行こう!…あつ…」

ハンターがいた…

そして、逃げる間も無く…
ボワン

桑原鞘子確保

残り11人

残り時間50分00秒

(停止中)

鞘子「……そんなあーーー」

紀梨乃「サヤが捕まつた！」

美砂「もうヤバいじゃんさー」

珠姫「大変な状況ですねーーー」

珠姫の近くに鞘子を確保したハンター・・・

珠姫「……！」

気づかれた・・・

珠姫「くつ……」

一度ハンターを振り切った珠姫・・・
今度はどうだ・・・

珠姫「……」

ピ――――

なんとまたしてもハンターを振り切った！

珠姫「……もうかなり……大変です……」

珠姫が何かを考える・・・

珠姫「……決めました。」

決めました、とは?

珠姫「……自首します。」

MISSION 2 (3) (後書き)

自首を決めた川添珠姫！
自首できるのか？

MISSION 2 (4) (前書き)

自首を決意した川添珠姫！
果たして、どうなるのか？

MISSION 2 (4)

珠姫「……自首します。」

なんと自首を決めた珠姫！

珠姫「抜けるのは嫌だけど、DVD・BOX手に入らなくなります
し……」

私欲に走った女……

珠姫「…教会も近くに」

教会は森の東部にあり、
珠姫も東部にいた……

珠姫「…あっちに教会が」

都「…自首したくなつてきた…いや、しない。ミッションをあきら
めない！」

珠姫「もつすべ……」

美砂「…時間うごいてない。誰かはやくしてよ～」

勇次「町までもうすぐだ…」

珠姫「着いた…」

教会にたどり着いた…
しかし、

神父がいないと自首はできない…

珠姫「懺悔室…」

ガチャツ
バタンツ

珠姫「神父さんが…」

いなかつた…

珠姫「…待つしかない

そのとき、

教会の近くにハンター…
ハンターは珠姫に気づいていない…

ガチャツ！

珠姫「…！」

神父「どうされましたか？」

神父「だ・・・

珠姫「あ、あの…」

神父「はい。」

珠姫「川添珠姫…自首します。」

神父「…祈りましょう。さすれば、神は許してくださいます。」

川添珠姫自首成立

36万円獲得

残り10人

残り時間50分00秒

(停止中)

珠姫「ありがとうございます…」

ピリリッピリリッピリリッ

勇次「メール…！タマちゃん自首した…」

明日菜「えつ…？自首成立…？」

都「…1番意外な人が自首した。」

和美「…えつ…？川添珠姫自首…」

聰莉「うそつ…？」

裕奈「なんで？」

牢獄メンバーも騒然・・・

珠姫「…ホツとしました。…つまらないと思われるかな…」

夕映「…いま思えば、花畠はどうか聞くべきでした…猛省しなければなりません。」

ピココリッ…

夕映「電話…誰からですか?…柿崎さんです。」

ピッ

夕映「はいです。」

美砂「ゆえきち?」

夕映「なんでしょうか?」

美砂「ミシシヨンやつてる?」

夕映「やつてるです。しかし、問題がありまして…」

美砂「なに問題つて?」

夕映「いま薬が無くて、材料を探さないといけないです。」

美砂「なにそれ！材料つてなにー？」

夕映「ウエカの花という、花弁が白く、葉は深い緑色でお星さまの
ような形の花で、森の花畠にあるそつです。」

美砂「……えつー？」

夕映「もう一度言いましょうか？」

美砂「いや、いい！わかつたからー！」

夕映「そうですか？」

美砂「うんつーじゃあねー！」

ピッ

美砂「……うそでしょ」

美砂がいるといひはー・・・

美砂「なんですよ……」

森の花畠だ・・・

美砂「なんでこいつなるの……」

花畠にいる美砂・・・
いつたいどうする・・・

美砂「… ウエカの花つてどれ？」

ミッショソに挑む！

美砂「……白くて縁で……星の形……これ？」

それがウエカの花だ・・・

美砂「持つてかないと……」

町に向かう美砂・・・

だが、町まではかなり距離がある・・・
動けばハンターに見つかるリスクも高まる・・・
無事にたどり着けるのか・・・

MISSION 2 (4) (後書き)

まだ続くミッション・・・
美砂は町にたどり着けるのか・・・

町を田指す美砂・・・
そして、
花を探す逃走者・・・
白雪姫を田覚めさせることは出来るのか?

MISSION 2 (5)

美砂「もう…もうして…」うなるの…」

愚痴りながら町を目指す美砂…

先ほど、

美砂『これかな?』

柿崎美砂 ウエカの花入手

夕映の情報で

ウエカの花がミッションに必要とわかり
近くにいた美砂が花を入手し、しぶしぶ町に向かっていた…

美砂「…ミッションやりたくないのに」

ぶつぶつ愚痴を語る美砂…

亜子「…あつた! 薬屋や。」

ようやく薬屋を見つけた亜子…

ギイツ

薬屋「いらっしゃい。」

畠子「すこません。薬ください。」

薬屋「どのよつなお薬で？」

畠子「眠りから覚ますためのお薬やねんけど……」

薬屋「……もしかして、スヤスヤの寝に関係しますへ。」

畠子「そうです。」

薬屋「……じつせ」

「……じつやく畠子も薬がないことを知った……」

畠子「えへ、そんな……」

薬屋「わつわ別の2人にもそつ話してね。」

畠子「……わかつました。」

薬屋を出る畠子……

畠子「とにかく、森にいかんと……」

畠子もウエカの花を手に入れるために森に戻る……

花畠を探す茶々丸……

そして、ネギ・・・

ネギ「どこにあるんでしょうか・・・」

茶々丸「・・・ネギ先生。」

ネギ「茶々丸さん!」

花畠を探している2人が出会った・・・

茶々丸「いま花畠を探してまして・・・」

ネギ「茶々丸さんもですか!?」

茶々丸「はい・・・ですが、見つかっていません。」

ネギ「じつは僕もでして・・・」

2人がいる場所は森の西部・・・
花畠は無い・・・

ネギ「あつちは探しましたけど・・・」

茶々丸「ではあつちの・・・北側の方へ行ってみましょうか・・・」

ネギ「はい!」

2人で花畠を探すようだ・・・

明日菜「…………迷つた。」

完全に迷子になつた明日菜・・・

明日菜「町はどじよ...」

ゆるとい、

里子「明日菜?」

里子だ・・・

明日菜「ー・里子ー・助かつたー・」

里子「?・なにが?」

明日菜「町に行きたくて、向かつてたら...」

里子「迷つたん?」

明日菜「……うん。」

里子「薬屋に行くん?」

明日菜「//シシソノやうなこと終わんないもん。」

里子「薬屋行つても意味なこよ。」

明日菜「えつー? なんで?」

事情を説明する亜子・・・

明日菜「つまり、いま薬は売り切れで材料の花を探さないといけないってこと…？」

亜子「そうなんよ。」

明日菜「え～、なによそれ～」

亜子「で、明日菜、花畠の場所知らん？」

明日菜「知らないわよ…あれ、もしかして…」

亜子「心当たりあるん？」

オープニングゲーム終了時、ひたすら逃げた明日菜は・・・

明日菜『なんでオレンジなのよ…大丈夫な色つて思つてたのに…このだつてオレンジ色の花いっぴい咲いてるし…』

花畠にいたのだ！

明日菜「あそこかな？…あそこだ…！」

亜子「知つてんの…？明日菜…」

明日菜「知つてる…」

亜子「ほな、はよ行かんと…」

明日菜「うん…あれ?」

亜子「どないしたん?」

明日菜「どつちから來たつけ…」

亜子「…」

役にたてず…

町の近くまでやつてきた美砂…

美砂「まだ着かないの?…わつ…」

夕映「…」

美砂が出会ったのは夕映だ…

美砂「もつ…びっくりした!」

夕映「わたしもです…あれ?それは…」

美砂「花みつけた…」

夕映「良かつたです。薬屋はもつすぐです。」

美砂「う、うん…」

夕映についていく美砂・・・

茶々丸「……ネギ先生。」

ネギ「はい?」

茶々丸「ハンターがいます。」

ネギ「えつ!?」

2人の視線の先にハンター・・・

茶々丸「先生、危ないので気をつけましょう。」

ネギ「は、はい。」

2人が見つけたハンターが・・・

ピ――――

2人に気づいた・・・

茶々丸「!逃げましょう!」

ネギ「わっ!来た! !」

逃げ出す2人・・・

ハンターが視界に捕えたのは・・・

茶々丸「…」じつに来ました。」

茶々丸だ・・・

じつはロボットの茶々丸・・・

サイボーグのハンターに勝てるのか？

MISSION 2 (5) (後書き)

ハンターに追われる茶々丸・・・
逃げ切れるのか？

MISSION 2 (6) (前書き)

ロボットVSサイボーグ！

茶々丸の運命は？

そして、ミッションは？

MISSION 2 (6)

ハンターに見つかった茶々丸・・・
ロボットVSサイボーグの勝者は？

茶々丸「.....」

逃げることに集中するロボット・・・

ピ――――

それを追うサイボーグ・・・

ピ――――

森の茂みを利用してなんとか振り切ったようだ・・・

勝者は茶々丸・・・

茶々丸「...危なかつた...茂みがなければ捕まつてました...先生は無事でしょうか?」

ネギ「ハアハア...茶々丸さん大丈夫でしょうか?」

無事のようだ・・・

美砂「着いた?」

夕映「着きました！」

よつやく薬屋にたどり着いた美砂・・・
ギイツ

薬屋「いらっしゃ……あつーウエカの花ー！」

美砂「これで薬を…」

薬屋「わかりました！」

美砂「はやくお願ひしますー！」

薬屋「まかせてくださいー！」

・・・・・

薬屋「よしつー出来たよー！」

夕映「できたですか？」

薬屋「これがウエカの薬だ。」

柿崎美砂＆綾瀬夕映　ウエカの薬入手

夕映「はやく行きましょうー！」

美砂「えつー？ちょっとー？」

急いで白雪姫の家に向かう2人・・・

白雪姫にウェルカムの薬を飲ませば、眠りから目覚めゲーム時間が再び動く・・・

美砂「待つてつて！」

夕映「急がないとゲーム時間が動きませんよー！」

美砂「……うん」

いまだしぶしぶついてく美砂・・・

古菲「花畠はどうアル？」

明日菜「こっち.. だつけ？」

亜子「明日菜しつかりしてやー！」

紀梨乃「まだ時間ついてない！」

茶々丸「……」

ネギ「花畠はどうですか？」

ほかの逃走者も焦りを隠せない・・・

そんななか・・・

勇次「マズいなあ・・・」

隠れている勇次の近くに・・・

ハンター・・・

勇次「もひつすぐ町なのに・・・」

そこへやつてきたのは・・・

夕映「はやく行くです！」

美砂「待つてよ！」

薬を持つ夕映と美砂・・・

2人はハンターに気づいていない・・・

そんな2人に気づいた勇次・・・

勇次「！！ハンターに気づいてないのか？・・・よしつ！」

夕映「！ハンターです！」

美砂「…つそでしょ！」

ハンターが2人に気づく

勇次「こっちはだ！」

いや、勇次に気づいた！

勇次を追いかけるハンター・・・

美砂「！？えつ！？そ！」

夕映「……まさか！？」

勇次「うおおおお―――つ――！」

ピ――――

2人のおとりとなつた勇次・・・

ピ――――

勇次「！うわつ！！」

ボワン

中田 勇次確保

残り9人

残り時間 50分00秒
(停止中)

勇次「……2人は無事かな」

男の中の男だ！

美砂「ねえ、いま中田さん…」

夕映「…私たちを助けましたね。」

美砂「なんで? (会つてまだ間もないのに) ビジット…私たちを…」

「

夕映「…自分の利益より人のためを選択したのでしょうか。」

美砂「(…人のため…もし、ハンターが円の近くにいたら、私は助けたかな?…円はどうしたかな?…私…) 情けない…」

夕映「はい?」

美砂「…なんでもない!はやく行け。」

夕映「はいです…」

美砂(…私…自分のことしか頭になかったな…今からでも…)
…(ひん、いまやるんだ。ミッションクリアしなきやー)

夕映(…さつきと雰囲気が変わったです…)

白雪姫の家までもつ少し…

MISSION 2 (6) (後書き)

勇次が確保されたことにより、美砂の心境が変わった！
美砂と夕映はミッションをクリア出来るのか？

MISSION 2 (7) (前書き)

時間を動かすために夕映と美砂が白雪姫のもとへ向かう！

MISSION 2 (7)

薬を手に入れた美砂と夕映・・・

美砂「ねえ、こっちであつてるかな?」

夕映「あつてるです。もう近いです。」

白雪姫の家はもう近いだ・・・

美砂「！見えた！あれ？」

夕映「間違いないです！」

たどり着いた！

美砂「白雪姫は...中かな？」

ガチャツ

美砂「.....ええっ！？本屋ちゃん！？」

夕映「...のどかー？」

美砂「.....本屋ちゃんが白雪姫？」

夕映「ここにいるところはそりではないかと...」

美砂「じゃあ、薬を...」

白雪姫にウソ力の薬を飲ませた！

美砂「…………」

夕映「…………」

白雪姫「…………んっ…………」

夕映「あっ…………」

白雪姫「うへへん…………？？…………わたしいったい？」

美砂「やつた！起きた！」

夕映「やつたです！」

ミシシヨンクリア

白雪姫「えつ？起きたつて？…………そうだ……わたし果物を食べたら
……急に眠くなつて」

夕映「…………これがスヤスヤの実ですね。」

美砂「もうこの実を食べちゃダメだよ。白雪姫さん。」

白雪姫「えつ、は、はいです。」

美砂「じゃあ、行こつかゆえ吉。」

夕映「ええ。」

白雪姫「あつ、あの…」

美砂「？」

夕映「なんでしょうか？」

白雪姫「あ、ありがとうございました。」

美砂「……………、じゃあね！」

夕映「さよならです。」

2人の逃走者が去ったあと…・・・

白雪姫「…私…また助けられた…助けられて…ばかりです…獵師さん…小人さんたちに王子様…そして、…あの方たち…」

しづらしくすると…・・・

ガチャッ

白雪姫「！」

？？「あつ、驚かせてしましたか？」

白雪姫「いえ、王子様…」

現れたのは隣の国の王子様でした・・・

王子様「…? どうかしましたか?」

白雪姫「……いえ、なんでも…」

王子様「僕にも言えませんか?」

白雪姫「…………わたし…………いつも助けられてばかりで…………みんなに…………迷惑かけてばかりだなって…………自分がちょっと嫌になっちゃって…………」

王子様「…なるほど。けどね。」

白雪姫「え?」

王子様「助けられるってことは、みんな白雪姫のことが好きなんだよ。」

白雪姫「…」

王子様「好きな人いるってことは、みんなが幸せになれるんだよ。白雪姫といっただけで、みんな幸せなんだよ。」

白雪姫「……王子様も?」

王子様「 もううるさい…」

白雪姫「 私も幸せですー。」

いひこひ、

白雪姫はスヤスヤの実の眠りから目覚め、
そして、

王子様と再び幸せに暮らすことができるたとせ・・・

しかし、

魔女「 おのれ… またしても…」

魔女は悔しがっていた・・・

魔女「 薬だつて買い込んだのに…悔しい…悔しい…なら、
次こそ！」

魔女の次の標的は・・・
いつたい？

MISSION 2 (7) (後書き)

ゲーム時間は再び動出した・・・
だが、魔女はまだ誰かを狙っている・・・

ミッシュ・ンクリア！

そして、牢獄では・・・

牢獄DEトーク2

おじやの国の中にある
お城付近に設置された
牢獄では・・・

和美「！あつー！」

木乃香「どないしたん？」

和美「タイマー動いてるー！」

円「一本だーことは...

裕奈「誰かクリアしたんだー！」

鞘子「すごいー！」

段十郎「ほほ絶望的な状況で... やるなあ...」

そこへ・・・

聰莉「あつ、タマちやん！」

自首をした珠姫が来た・・・

珠姫「やつと着いた...」

鞘子「ズルいー自首するなんてー」

人のことは言えない・・・

珠姫「…ズルいとは思いましたが、2度もハンターに追われまして…」

美空「…2回追われて振り切ったんすか?」

裕奈「…それもすげい。」

珠姫「次はダメと思つて…」

鞘子「いいなあ〜いいなあ〜、わたし自首しようとして捕まつたのに!」

聰莉「自首しようと思つたんですか?」

鞘子「うう……」

円「人のこと言えないじゃないですか?」

鞘子「…………」

さよ「まあまあ、まだ終わってないんですから…」

和美「50分か…長いよ…逃げ切れるのかな?」

そして、

メールだ・・・

和美「メール来た.....」

ハルナ「なになに?」

和美「ミッシヨンクリア。わつー綾瀬夕映と柿崎美砂の活躍により白雪姫が目覚めた。だつて!」

ハルナ「夕映が!」

円「美砂が!? 2度も?」

木乃香「ぐさみー、驚きすぎやで。」

円「ぐさみー言つた。いや、だつて始まる前...」

円『始まる!』

美砂『よしつー。』

円『ミッシヨンやるとさせよろしくー。』

美砂『わたしやらない。』

円『えつー。』

美砂『絶対やらないから、よろしくー。』

円「つて言つてたんだよ。」

木乃香「どういう心境の変化やろ?」

そこに、美砂の心を動かした人物が牢獄に到着・・・

勇次「いやあ、捕まつちやつた。」

段十郎「ユージもかあ。」

勇次「ハンター速い。見つかったら逃げ切るの難しい。」

美砂と夕映を助けて捕まつたことは言わない勇次・・・

都「すごいな。クリアしたんだ。」

町の近くまで来た都・・・

都「…私なんにもしてない。次のミッションは絶対参加して成功するー。」

ミッション参加宣言だ・・・

紀梨乃「…………」

森に潜む紀梨乃の視線の先は・・・

紀梨乃「…………はつーぼーつとしてた。」

何もなかつた・・・

紀梨乃「集中しないと。集中!」

集中力の無さが彼女の弱点である・・・

古菲「なんとかミッショングクリアしてよかつたアル。」

夕映と行動し、

花畠を単独で探していた古菲・・・

ミッショングクリアに喜ぶ・・・

古菲「まだ余裕アル!ハンターどうからでも来るアル!」

体力はまだまだあるようだ・・・

明日菜「…………」

亜子「ミッショングクリアや。」

こちらも、

花畠を探してた亜子と明日菜・・・

ちなみに、

明日菜は花畠の場所を思い出せなかつた・・・

里子「…まあ、クリアしたんやから。」

明日菜「…………うふ」

ショックはあるひじこ・・・

そして、
魔女がまた動く・・・

魔女の標的はいつたい？

～シノトロリ～ 魔女の図の事件～（漫畫）

魔女のターゲットは…・・・

～シンデレラ～おじいさんの国の事件～

とある国の
とある町に一人の少女がありました。

その少女の名は・・・

「シンデレラ！」

シンデレラ「ーはーっ…」

シンデレラと言いました。

シンデレラは毎日のように母親と姉たちに意地悪されました。

そんなある日、

シンデレラの家にお城から舞踏会の招待状が届きました。

母親と姉たちは

おしゃれをしてお城に行きました。

しかし、

シンデレラはお留守番です。

シンデレラ「…今じるお母さま達は舞踏会か…楽しいのかな?
行つてみたいなあ…でも…こんな格好じや行けないよね。」

そんなときでした。

？？「その願い叶えてさしあげましょ。」

シンティーラ「……だれつ……」

？？「ウフフ、『めんなさい。おどろかせてしましましたね。私は
魔法使いです。』

シンティーラ「魔法使い……」

魔法使い「ええ、そうよ。」

シンティーラ「……魔女じやなくて？」

魔法使い「あらあ、冗談にしてはひどくあつません……？」

シンティーラ「ひつー『めんなさい』……」

魔法使い「ウフフ、気にしないで。あなたをお城に連れてつてさし
あげます。」

シンティーラ「でも、私にはきれいなドレスもないし……今から行つて
も……」

魔法使い「私に任せでー！」

そつ言ひつと、

魔法使いは魔法で・・・

シンティーラ「……えつー・・・すー……」

シンティーラにきれいなドレスとガラスの靴を・・・

魔法使い「まだよ~」

また魔法で今度は、

シンデレラ「?あつ、あれって……」

魔法使い「ウフフ、手近にあつたものでつべつたから、『みんなさい』」

「

シンデレラ「すい」…カボチャで出来た馬車だ…

カボチャの馬車を出しました…

シンデレラ「これを…わたしこ?」

魔法使い「ええ、それで楽しんでらっしゃい…ただし、ひとつだけ注意。」

シンデレラ「注意?」

魔法使い「12時になつてしまつと魔法は解けてしまつ。だから、12時になる前に帰らないと。」

シンデレラ「はい、わかりました。ありがとうございます。」

魔法使い「じゃあ、出発!」

シンデレラは

魔法使いのおかげで

お城に向かいました。

そして、お城では・・・

王子が1人で外を眺めてました。

王子「...こつものよつこ、舞踏会か...退屈だな...つまらない...」

つまらなさそうにしているのも理由がありました。

この舞踏会は

王様が王子の結婚相手を探すために開いたのです。それを知っている王子は飽き飽きでした。

王子「自分の将来の相手は自分で見つけるといつに...素直に楽しめないじゃないか。」

そんなどき、

王子「...ん? あれは...誰だ?」

王子が見たのは・・・

魔法使い「ああ、着いたわ。」

シンデレラ「わあ、お城だ...」

シンデレラ達でした。

シンデレラ「……本当にわたしここに来てよかつたのかな……」

魔法使い「あら、不安?」

シンデレラ「……はい。」

魔法使い「大丈夫よ。不安も心配もする必要ないわ。がんばってー。」

シンデレラ「で、でも……」

王子「……美しい。」

シンデレラ「え?」

魔法使い「あらあら。」

そこにはこの国の王子がいました。

王子「失礼……わたしといっしょに踊りませんか?」

シンデレラ「わ、わたしですか?でも、わたし……今まで踊ったこと無くて……」

王子「大丈夫です。私に任せて……」

シンデレラ「は、はい……」

舞踏会で

王子とシンデレラは

楽しそうに踊りました。

しかし、

楽しい時間は長くありませんでした。

シンデレラ「はつ、今何時ですか？」

王子「えつへもつすぐ12時ですよ。」

シンデレラ「大変ー帰らなーとー。」

王子「えつー待つてくださー。」

シンデレラ「じめんなさー..じつても帰らなーといけないんですー..キャッ!？」

王子「あつー。」

シンデレラが階段を駆けおりたとき、ガラスの靴を片方落としてしまいました。

王子がそれを拾った隙に

シンデレラは帰ってしまいました。

王子「.....はじめだ。」んなに楽しかったのは..もう一度彼女に会いたい!」

シンデレラ「.....もとに戻っちゃった。」

魔法が解けてもとの姿に戻ったシンデレラ。

シンデレラ「…優しい人だったな…いつかもう一度会いたいなあ…」

…」

そして、次の日…・・・

（逃走中が行われてる日）

王子「…この靴の持ち主探すんだ！絶対だ！」

ガラスの靴を使ってシンデレラを探していました。

その様子を見ていたのは…・・・

魔女「今度は、あれだ。」

魔女だった。

王子「…いったいどこの？」

そのとき、

ブワ――――ツ

王子「…な、なんだ！？」

そして、

王子「…あつ！靴が…！」

ガラスの靴が空へ舞い上がり……

パシッ

魔女「……魔法使いの魔法の靴か。」

魔女の手に渡つてしまつた！

王子「それを返してくれ！大切なものなんだ！」

魔女「断る！……じゃあ、さよなら。」

王子「待て！……今すぐ靴を取り戻せ！……魔女め。」

そして、

魔女「ここまでくれば大丈夫だろう。さて、この靴はここに隠そつ

……

このとき、

魔女は知らなかつた。

その様子を見ていたものがいたことを……

～シノトロリ～ オーラの国の事件～（後書き）

～アリスのリラックソン～が始まる・・・

MISSION 3 (1) (前書き)

第3のミッションが始まる・・・

MISSION3 (1)

ピリリッシュピリリッシュピリリッシュ

明日菜「…また来た…」

メールだ…

明日菜「ミッシングだ…」

都「『魔女が王子からシンデレラのガラスの靴を盗んだ。』ダメでしょ！ 盗んじや…」

夕映「『残り35分までに盗まれたガラスの靴を見つけ、』

ネギ「『お城近くにいる王子に渡せば、』

和美「『牢獄から2人復活させることが出来る。』…だつて…」

まき絵「ほんと…！」

ハルナ「まだチャンスがある…」

和美「『ただし、復活した者が逃走成功した場合、復活させた者に賞金を半分渡さなければならない。』

裕奈「それくらい全然だよ！」

美砂「『ガラスの靴の場所を知っているのは…』

古菲「『とけいウサギのみ。急ぎたまえ。』とけいウサギって誰アル？」

MISSION 3

賞金ボーナスを獲得せよ！

魔女が王子からガラスの靴を盗み、どこかに隠した。

残り35分までに、

ガラスの靴を見つけだし、お城近くにいる王子に渡せば魔法使いが現れ、牢獄から2人を復活させる事ができる。

復活者の賞金の半分を復活させた者は獲得できる。

そして、

ガラスの靴の場所を知っているのは・・・

とけいウサギ「大変だ！大変だ！大変だ！大変だ――つ――」

町の中を走り回っているとけいウサギだけである。

美砂「…行かなきや！私助けてもらつたから、今度は私が助けるんだ！」

夕映「さつき助けてもらいましたし…行くです。」

都「さつき言つたとおり、ミッションやります！」

明日菜「行きたいけど…場所がわからんない…」

紀梨乃「サヤ捕まつたしなあ…行こつか。」

続々とミッションに参加する逃走者…

現在残り時間およそ45分…

ミッション終了まで

およそ10分…

とけいウサギ「大変だ〜！」

とけいウサギを見つけだし、ガラスの靴を見つめられるのか…

ミッションをクリアし、
復活せぬことはできるのか・・・

MISSION 3 (2) (前書き)

誰がとけいウサギを見つけガラスの靴を手に入れるのか・・・

MISSION3(2)

和美「…あれ？王子様？」

裕奈「ええー！いいんちょじやん！」

家来「無礼だぞー！」の国の王子に向かつて何といふー。」

王子「そう怒るな。いまはガラスの靴がさきだー。」

アキラ「…あそこにいるのって。」

和美「那波さんだ！」

魔法使い「オホホ、人違いじゃないですか？私はただの魔法使いです。」

まき絵「え？魔女じやなくて？」

魔法使い「冗談にしてはひどいんじやなくて…？」

牢獄全員「ひつー。」めんなさい。」

魔法使い「わかればいいんです。」

ネギ「…とけいウサギって…不思議の国のアリスのウサギでしたつけ。」

ミッションのため、

とけいウサギをさがすネギ・・・

そこに・・・

紀梨乃「あれ？ ネギ君だよね。」

紀梨乃だ・・・

ネギ「千葉さん。ミッションですか？」

紀梨乃「うん。とけいウサギって森にいないのかな？」

とけいウサギは町の中だ・・・

森の中にはいない・・・

ネギ「僕はもう少しここを探します。千葉さんは・・・」

紀梨乃「私は町に行つてみる。」

ネギ「では、がんばってください。」

紀梨乃「うん！」

2人は別の方に向かう・・・

紀梨乃「……最年少なのに律儀だなあ。」

律儀な最年少・・・

ネギ「…氣をつけないと。…ハンターでしょうか?」

ネギが見つけたのは…。

ハンター…。

ネギ「……隠れないと。」

身を隠すネギ…。

しかし、

ピ――――

見つかつた…。

ネギ「わつー来た!」

逃げるネギ…。

そこそこ…。

夕映「とけ」ウサギはどうですか?」

夕映だ…。

ネギ「夕映さん!ハンター!」

夕映「え!?うわーー!」

夕映も巻き添えだ・・・

卷之三

100

夕映「うわっ！うわーっ！」

綾瀨夕映確保

残り時間43分50秒

夕映「……中田さんを助けられませんでした。」

志半ばで散る

一
方

ネギ「ハア…ハア…夕映さんは?」

夕映を心配するネギ・・・

しかし、

ネギ「…うわ…」

別のハンター・・・

ネギ「あつ、もうダメだ…」

ボワン

ネギ・スプリングファイールド確保

残り7人

残り時間43分17秒

ネギ「ハア…速い…捕まつてしましました…」

男子全員確保された・・・

明日菜「ネギが捕まつた！」

紀梨乃「さつき話してたのに…？」

古菲「リーダーが捕まつたアル。」

亜子「…いた！とけいウサギちゃう？」

とけいウサギを見つけた亜子・・・

とけいウサギ「大変だ！大変だ！」

亜子「待つて〜。」

とけいウサギ「たいへん？」

畠子「…あれ…風香ちゃんやん。」

とけいウサギ「え? 誰それ?」

畠子「わやつの…とけいウサギやん?」

とけいウサギ「うん…」

畠子「やつなんや。聞きたことあるんやけど…」

とけいウサギ「なになに?」

畠子「ガラスの靴つてど?」

とけいウサギ「(サクシ)…え、なんど?」

畠子「知つてるって聞いたから…」

とけいウサギ「え…と…果物屋さんの…」

畠子「うん。」

とけいウサギ「植木鉢の中…」

畠子「ありがと!」

場所を聞き出した畠子…
お礼を言こすぐに向かう…

とけいウサギ「…大変だ! 大変だ!」

とけいウサギは再び町の中を駆けまわる・・・

そして、そこに・・・

紀梨乃「着いた着いた。」

紀梨乃が町の中に入つた・・・

紀梨乃「え~と、とけいウサギは~~~~~あれかな?
すぐに発見した!

紀梨乃「とけいウサギさ~ん。」

とけいウサギ「~.....?」

紀梨乃「あの...ガラスの靴つてど~ですか?」

とけいウサギ「(ヰクツ)~な、なんど?」

紀梨乃「知つて~ると聞いたから。」

とけいウサギ「え~と.....町の入り口の柱の影...」

紀梨乃「わかった。ありがとう~。」

すぐさま向かう紀梨乃・・・

しかし、先ほどを思い出して欲しい・・・

とけいウサギ『え…と…果物屋さん…』

亜子『うん。』

とけいウサギ『植木鉢の中…』

亜子には果物屋の植木鉢の中と言ったのに対し、
紀梨乃には町の入り口の柱の影と言った・・・

そして、

亜子「あつた！果物屋さんや。」

紀梨乃「入ってきたところにあつたんだ。」

その場所に着いた2人・・・

とけいウサギが2つの場所を言った理由・・・

亜子「このな…か…」

紀梨乃「あつ…あつ…た…」

それは・・・

亜子「うそ…」

紀梨乃「…………え？」

亜子、紀梨乃「ガラスの靴

割れてる~~~~~！――？――？」

MISSION3(2)(後書き)

ガラスの靴が割れていた！？
その理由とは？

ミッション終了まで
およそ5分・・・
どうなつてしまつのか・・・

MISSION3(3)(前書き)

ガラスの靴を見つけた亜子と紀梨乃・・・
しかし、
ガラスの靴は割っていた！

MISSION3 (3)

亞子「割れとる…なんで？なんで？」

紀梨乃「どーして？ガラスの靴が半分に…？」

ガラスの靴が半分に割れていた！

いつたいなぜ・・・

時はさかのぼる・・・

魔女がガラスの靴を隠したとき・・・
それを見ていたのは・・・

とけいウサギだ・・・

とけいウサギ「？：なにやつてるんだろ？？」

魔女がいた場所に向かうとけいウサギ・・・

とけいウサギ「わつーす」！ガラスで出来た靴だ！」

ガラスの靴を発見した・・・

とけいウサギ「……はいてみたいなあ。」

そう言つと、とけいウサギがガラスの靴を履こうとする。

トナコウサギ「……足の大きさ違つから履けないや。」

そのとおり

ピシッ！！

とせじウサギ「……えり?……おやか」

ガラスの靴が半分に
・・・

割れた

1

ט' ע' ע' ע' ע' ע'

方の手の鞋を分かれ扱ふ
一吳物屋の手の板刀金に附けたる方

とけいウサギ「大変だ！大変だ！大変だ！」

本当に大変なことをした・・・

里子「どうなつしょ…」

紀梨乃「ミシショソ...えつへど、うしたら...」

2人が困りはてる・・・

そのとや、

？？『すいませ～ん。』

亜子、紀梨乃「…！」

亜子「えつ！？だれ？」

紀梨乃「だれ？だれの声？」

？？『わたしは魔法使いです。お困りですか？』

亜子「魔法使い…つてシンテレラの？」

紀梨乃「…ガラスの靴をシンテレラに渡した人ですか？」

魔法使い『はい、そうです。』

亜子「！魔法使いさん！じつは、ガラスの靴が…」

紀梨乃「じつは、ガラスの靴が…」

亜子「…割れていて…」

亜子「どうしたらええか…」

紀梨乃「どうすればいいんですか？」

魔法使い『あらあら、…では、2人とも。』

亜子「2人？」

紀梨乃「もう1人いるの？」

魔法使い『お城まで来なさい。私はそこにいますから。』

亜子「お城…」

紀梨乃「はい、わかりました。」

2人はこれから魔法使いがいるお城に向かう…

都「…いないよ。……どこだよつ…もつつ…！」

とけいウサギを見つけられない都…
相当イライラしているようだ…

そこに…

茶々丸「……富崎さんですね。」

茶々丸も来た…

都「…あれは茶々丸さんだつけ？」

都も気付いた…

都「茶々丸さん！ガラスの靴みつけました？」

茶々丸「いえ、まだです。」

都（ほつ、良かつた。）「見つからなくて。とけいウサギ…」

茶々丸「私も探しているんですが…」

2人は森の中…

とけいウサギはいない…

茶々丸「ここにはいないのではないのでしょうか。」

都「ええ、じゃあ、町の方かな？」

茶々丸「もしかしたら…ハンター来ました！」

都「嘘でしょっ！」

とけいウサギではなくハンターを見つけた2人…

ピ――――

見つかった…

ハンターが視界に捕らえたのは…

茶々丸「…………！」

茶々丸だ…

ロボットVSサイボーグ再び・・・

今度はどうだ・・・

茶々丸「.....速い.....これはダメかも」

サイボーグがロボットに・・・

追いついた・・・

ボワン

絡繰茶々丸確保

残り6人

残り時間39分48秒

勝者、ハンター・・・

茶々丸「.....やはり、ダメでした。」

都「あつ！茶々丸さんが！」

古菲「捕まつたアルか！？」

紀梨乃「お城に急げっ！」

鞘子「あつ！キリノだ！」

和美「来たっ！」

ハルナ「ガラスの靴は？」

紀梨乃「着いた…」

裕奈「やつたーはやく王手だー。」

紀梨乃「…ちよつと無理。」

靴子「ええつ！？なんで？」

紀梨乃がガラスの靴を見せる…

牢獄全員「…………ええ…………つ…………つ…………？」

和美「割れてるじやん！」

裕奈「無理だよー！」れー

牢獄内でやいやい言ひ合ふとき…

魔法使い「来ましたね。」

紀梨乃「この声…魔法使いさん？」

魔法使い「オホホ、そうです。」

紀梨乃「割れた靴持つてきました。」

魔法使い「あと一つあればなんとかできます。」

紀梨乃「あと一つー。」

亞子「いそがな！」

わづーつの鞆をもつ田中・・・
ニシムン終」までおよそ2分・・・
田子間に立つのか・・・

MISSION 3 (3) (後書き)

里子は無事にお城にたどり着くことができるのか?

MISSION 3 (4) (前書き)

時間が迫る・・・
里子は間に合ひのか・・・

MISSHON3 (4)

亜子「お城近くやのに…怖くて…近付けへん…」

半分のガラスの靴をもつ亜子…。
お城までもうすぐだが、
見えないハンターのせいで近付けない…。

美砂「いたつ！とけいウサギ！」

よひやくとけいウサギを発見した美砂…。

美砂「とけいウサギ～～～…あれ？風むらやん？」

とけいウサギ「？だれそれ？」

美砂「…え～と、ガラスの靴つてど～～～」

とけいウサギ「（ギクシ）え？」

美砂「？いや、ガラスの靴の場所を教えてほしいんだけど…」

とけいウサギ「…果物屋さんの植木鉢の中…です。」

美砂「わかった。ありがと～」

しかし、

すでにガラスの靴は…。

紀梨乃と・・・

紀梨乃「…まだかなあ？ハンター来てないよね？」

亜子が・・・

亜子「怖い～～～」

持つている・・・

古菲「もう時間ないアル…」

都「とけいウサギ見つかんない！」

明日菜「…完全に迷った。」

美砂「…あれ？ない…誰か持つてつたのかな？」

ミッション終了まで残り1分

亜子「…行く…」

ついに亜子が動いた！

亜子「間に合って…」

魔法使いの近くには

王子がいる！

ガラスの靴を復元できればすぐ「ミッションをクリアできる！」

紀梨乃「… 来た！」

裕奈「あつー亜子だ！」

和美「靴持つてる！」

ようやくお城にたどり着いた！

亜子「靴…どうしたら…って那波さん？」

魔法使い「那波さんじゃないわよ。」

ミッション終了まで残り30秒

魔法使い「くつつけて。」

紀梨乃、亜子「はい…」

すると、

ピカ一ツ

亜子「靴が！」

光があたると…・・・

紀梨乃「！元に戻つてゐ！」「

魔法使い「さあ早く王子様[ニ]…」

亞子、紀梨乃「はい！」

ミッション終了まで残り15秒

亞子「王子様ーつ！」

紀梨乃「ガラスの靴です！」

王子「！誠か！」

亞子「あれつ？いいんちょ…」

紀梨乃「どうぞつ！」

王子「確かに！2人ともありがとうございました！」

ミッションクリア

魔法使い「良かつたわ～。」「

亞子「魔法使いさん。」「

魔法使い「これであの子も…」

紀梨乃「？…あの子？」

魔法使い「いえ、さああなた方にお礼をしないと…なにがいいですか？」

紀梨乃「復活させたい人がいます！」

魔法使い「わかりました。…あつ！」

亞子「…どうしたんですか？」

魔法使い「…2人。どうしましょう。2人いるので、1人ずつしか

…」

亞子「…そつか。2人しか復活できひんから。」

紀梨乃「1人で1人しか復活できないんだ。」

王子「いや。」

亞子「いいん…やなくて、王子様。」

王子「私もお礼がしたい。この牢獄から2人出してあげよう。」

紀梨乃「…とこうことは。」

亞子「4人復活できるってことですか？」

牢獄全員「やつたー！」

魔法使い「では、あらためて…誰を牢獄から出しましょうか。」

紀梨乃「私は…サヤとユージ君…」

鞘子「やつた！」

勇次「ありがとうございます！」

亜子「ウチは…アキラと裕奈…」

アキラ「…私…？」

裕奈「やつた～！またゲームに参加できる…」

魔法使い「では、4人…復活したまえ～。」

ポンッ

魔法使いの魔法で

牢獄から外に出れた4人！

鞘子「…やつた！ありがとうキリノ～。」

勇次「さあ、がんばるぞ…」

アキラ「亜子…ありがとうございます。」

裕奈「復活したからには、がんばらにゃいとな～。」

明石裕奈

大河内アキラ

桑原鞘子

中田勇次 復活

残り10人

ピリリッピリリッピリリッ

明日菜「！メール？」

メールだ・・・

明日菜「…『ミッション結果』」

都「『和泉亜子と千葉紀梨乃の活躍でガラスの靴は王子のもとに戻り、』」

美砂「『明石裕奈、大河内アキラ、桑原鞘子、中田勇次が復活。』良かつた中田さん復活した。」

古菲「『残り10人』…一気に人が増えたアル。」

シンデレラ「…買い物はこれでよしつ…と…王子様…もう一度会いたい…」

王子「…どにもいない…いつたいどこにいるんだ。」

そこに・・・

シンデレラ「？…王子様！」

王子「！君は…まさか！？」

シンデレラ「えつ？」

王子「舞踏会で会つた…」

シンデレラ「…いえ、人違いでは…私舞踏会など行つたことはござ
いません。」

王子「なら、これを履いていただけませんか？」

シンデレラ「…それは…」

王子が出したのはガラスの靴。

王子「あなたでは無いと言つなりそれを証明していただきたい。
まあ。」

シンデレラ「……履けません。」

王子「…なぜ。」

シンデレラは
持つていたガラスの中から
あるものを取り出した…

王子「…やはり、君だったんだ。」

それはもう一つのガラスの靴でした。

シンデレラ「…せい。」

王子「どうして、あんな嘘を？」

シンデレラ「私は見てのとおり、本当は着る服はボロボロで、身分
だって低いです。そんな私が王子様と踊つたなんて知れたら…」

王子「そんなことは関係ない！」

シンデレラ「…！」

王子「わたしは、あの日からあなたを忘れられません。身分の違い
など問題ない。わたしは…あなたが…好きです！」

シンデレラ「…！」

王子「それだけです。それだけではダメですか？」

シンデレラ「…私もはじめてあつてから、忘れたことはない」といませ
ん…本当に、こんな身分も低くて、服もボロボロな私なのに…こん
な私でもあなたを愛していいんですか？」

王子「はい！」

抱き合つ2人。

シンデレラ「グスッ…私…いま幸せです。」

王子「私もです。」

「うう、
シンティニアは王妃と再会をはたし、後に結婚することになりました
とわ・・・

しかし、

魔女「また失敗…、どうして…」

魔女は・・・

魔女「まだ…まだだ！ 次こそは…」

あきらめてなかつた・・・

魔女はまだあきらめていない……
なにが起るのか……

牢獄DEAターク3（前書き）

牢獄に残された者達が語る・・・

牢獄DEトーク3

おとぎの国の中にある
お城付近に設置された
牢獄では・・・

美空「いいっすね、復活出来た人は・・・」

和美「しょうがないって、こればかりは。」

ネギ「がんばってほしいですね。」

ハルナ「まつ、そうね。これですぐ捕まつたら最悪だけだ。」

和美「それは、1人くらいは、いそうだね。」

さよ「確かに自首を狙つてた方復活しましたよね。」

段十郎「… そういえば。」

鞆子「ハックシュン！… ?… ハンターいないよね。」

さよ「自首するんでしょうか…」

美空「したらしたでゆるせないっす。」

卷之三十一

和美「そんな」としたら騙あたるんじゃない?」

夕映「ともかく、私たちはことの成り行きを見守るしかないわけで
すから。」

茶々丸「その通りです。」

古菲「あと三分もうすこしアル。…だれアル?」

森を歩く古菲が見たのは・・・

鞘子「教会はあつちだよね。」

教会を目指す復活したばかりの靴子た
・・・

古事記・パンダ・じやなか・たアル・」

三　　二　　一

古菲ー？ハンター來たアル！「

卷之三

芭蕉の声を聞いた靴子も逃げる・・・

古菲「あ——つ！待つアル！待つアル——つ——！」

ボワン

古菲確保

残り9人

残り時間 22分26秒

古菲「…悔しいアルーーつ…！」

叫びが止まらない…

鞆子「…ヤバイよ。ビリじょつ。」

自首へ向かう鞆子…

鞆子「もつ少しだったのに。」

教会から離れてしまった…

明日菜「…………」

道に迷つた明日菜…

彼女が今いるのは…

明日菜「なんていまになつて花畠に…」

MISSON2のキーとなつた花畠だった…

都「またミッションできなかつた…」

ミッションに参加するも結果を出せなかつた都・・・

都 一 今度こそ一 今度こそは

再び闘志を燃やす・・・

鞆子「やつともとの場所に戻れた。」

自首を独う鞄子・・・

靴子——！——ヤバイよ——いる——

目線はハンター・・・・

ハーフケに陥る靴子 . . .

靴子「こつち来ないで…こつち来ないで…」

۱۰

気づかれた・・・

鞄子「いやあーっ！来たーーっ！」

一一一

鞆子「もうこやあ——つ！—」

卷之三

桑原鞆子確保

浅づ詩聞

「ニギヤハニシテ」

和美「……教会付近にて、桑原鞘子確保。」

牢獄全員「え―――つ！？」

美空「マジっすか！？」

ハルナ「5分もたつてないよ！？」

木乃香「教会付近で言う」とは自首しようとしたんかなあ?」

刹那、その可能性が高いですね。

紀梨乃「…何してんのサヤ…早すぎだよ。」

鞘子「みんなに何か言われそう…」

すでに言われている・・・

そして、

お城にはある人物が遊びにきていたのだった・・・

魔女「今度こそは・・・」

魔女がその人物を狙う・・・

魔女の次のターゲットとはいつたまに誰だ・・・

～霧れる森の美女～おじいの図の事件～（前書き）

魔女が動く・・・
そして・・・

～眠れる森の美女～おとぎの国の事件～

ある国のあるお城に1人のお姫様が遊びに来ていました。お姫様は数日前まで森の中で呪いによつて眠りについていました。

しかし、

その呪いが解け

無事に目覚めることができました。

姫「…せっかく目が覚めて遊びに来たのになー。王子様いないなんて…」

王子は町に出て歩いていて、お城にはいませんでした。

姫「…でも、王子様が幸せならいいか。」

王子とシンデレラのことを聞いていたお姫様は2人のことを応援していました。

しかし、

??「ふふふ」

姫「…?…だれ?」

そこに現れたのは…・・・

魔女「ふふふ…久しづりね。」

姫「……どなたですか？」
ズテツ

魔女「魔女だ！魔女！」

姫「ああー、私に呪いをかけた！」

魔女「そうだ！」

姫「久しぶりですね。お元気ですか？」

魔女「……相変わらずか。その性格は……」

姫「はい？」

魔女「まあいい。お前にあの時の呪いをまたかけてやる！」

姫「……え？」

魔女「今度こそ永遠なる眠りをお前に『えよ』つ。」

姫「……」

魔女「どうした。恐怖で声も出ないか？」

姫「ねえ。」

魔女「なんだ？」

姫「どうしてこんなことあるの？」

魔女「こんなこと？」

姫「みんなを困らせる」と。

魔女「…どうして？」

姫「うん。」

魔女「…どうして。」

姫「答えられない？」

魔女「う、うるせー！…そんなことはどうだっていいー。お前には呪いがかった！糸車の針にさされば、再び永い眠りにつくぞー！」

姫「…わたしはいいよ。」

魔女「…な、なにがだ！」

姫「呪いにかかっても気にしないから。」

魔女「…。」

姫「約束して。」

魔女「約束？」

姫「みんなを困らせるの、これで最後にしてね。」

魔女「……おい！」

姫「あ……何か……ぼーっとして……」

フツ

お姫様はどこかに姿を消した。

あとに残つたのは魔女だけだった・・・

お姫様はお城の西にある塔の頂上にいました。

しかし、

お姫様の意識はじっかりしておらず空の方を眺めてました。

そして、
東の塔の頂上には糸車がありました。

そこへ、

? ? 「ハンター 10体転送。」

ハンターが転送された・・・

魔女「……」

姫『みんなを困らせるの、これで最後にしてね。』

魔女「あの言葉…」

? ? 『みんなを困らせてないで…困らせるのは私だけにして…』

魔女「…なんだ。いつたい…頭に残る」の言葉は…」

? ? 「…」

魔女を見つめる影…・

その正体は…・

～霧れる森の美女～ねじねの国の事件～（後書き）

魔女を見つめる影の正体は・・・
そして、魔女の秘密が・・・

～魔女といふやつ～魔女の國の事せ～（福井城）

明らかになぬ魔女の過去 . . .

～魔女と心やれっこ少女～おとわの国の事件～

？？「久しぶりね…」

魔女「…お前は。」

魔法使い「魔法使いです。」

魔女「何のようだ！お姫様を助けに来たのか？ならもう遅い…すでに呪いはかかる…残念だったな！」

魔法使い「…確かに私は助けに来たわ。お姫様を…そして…あなたを！」

魔女「…私を…だと？」

魔法使い「あなたは本当は魔女じゃないのよ…」

魔女「…魔女じゃない？私は魔女だ！」

魔法使い「覚えてませんか？私のことを。本当のあなたは心やっこい女の子なのよ。」

魔女「…お前、まさか…」

それは少し前のお話

ある国にとても心やっこい女の子がいました。

どんな人にも優しく、

動物たちやお花、すべてのものに優しい心を持つていました。

そんなある日、

少女「…？だれか倒れてる！」

道に倒れた人を見つけました。

少女「大丈夫ですか？」

？？「…うつ……」

少女「…女の人だ…ちょっと待つててください。」

少女はそう言つと

お水や薬などを持つて来て女性を助け、家につれていきました。

女性「…ありがとうございます。訳あつて倒れてしまいまして…」

少女「無事で良かつた。」

女性「あなたは優しいのね。」

少女「困つてゐる人がいたらたすけないと。」

女性「…ふうーん。」

少女「？」

女性「訂正しましょ。あなたは優しきがる。」

少女「えつ？」

女性がそういつと、

周囲が重々しい空氣になつた。

女性「わたしと出合つたとき、見捨てておけば今から起らぬこと何
巻き込まれなかつたのに…ね。」

バサツ

少女「…あ…まさか。」

「やつ。私は魔女よ。」

少女「…」

魔女「驚いた? わよね。」

少女「…はい。」

魔女「素直な子…」

少女「何をするつもりですか?」

魔女「…するの…」

ビカーーッ

少女「…まあ…」

光がおれおれと…

少女「…どうなつたの?」

魔女「自分の姿を見なさい。」

少女「えつ?…」の姿つて…」

魔女「ふふふ…新しい魔女の誕生よ。」

少女「…」

魔女「言葉もでない?」

少女「…魔女さん。」

魔女「ん?なあ?」?

少女「びびって、『んな』とを?」

魔女「おもしろこか?」

少女「…お願いです。」

魔女「なあに?もとに戻せだつたりお断わつよ。」

少女「みんなを困らせな」で…困らせるのは私だけにして…」

魔女「…なつ…」

少女「お願ひです。」

魔女「どいままでお人好しなのよ…じゃあ、いりしてやる…」

ビカーッ

少女「キャッ…」

魔女「あなたの心そのもの変えてあげる。心やれしこあなたはもつ
いなくなる。そして、あなたは本当の魔女になるのよ。」

少女「ひっ、魔女さん…」

魔女「？」

少女「私のお願ひ…きいてくれてありがとう。」

魔女「！？」

少女「私を…困らせてくれて…心が変われば…きっと魔女さんがみ
んなを困らせる」とは無くなるよね。」

魔女「！？違う…私はそんなつもりで…魔法をかけたんじゃ…」

少女「やつぱり私…嫌だなあ。みんなを困らせるの…魔女さん…も
し私が何かしてみんなを困らせたら…みんなを…助けてね…」

魔女「つ……どうして?……あなたもうすぐ自分が自分でなくなっちゃうのに!どうして、人の心配ができるの?怖くないの?」

少女「…怖いですよ…でも…みんなのことが…大好きだから…もち
ろん…魔女さんも…」

魔女「……そんなつ……ダメーやめてー」の子の心を変えないで——
——」

スウーツ

光がおさまると・・・

魔女「……あ……ああ……」

少女「……なんでそんな顔してるの？ ありがと。私を魔女にしてくれて。」

そこにいたのは完全な魔女となつた少女だつた。

魔女 そんなん間にあわなかつた

少女「どうして悲しい顔をするの？あなたのおかげで生まれ変わったのに。」

魔女「つ…今もとに戻してあげる! キヤツ! 」

少女は魔法で魔女を鎖で縛り動けなくした。

少女「……す、い、こ。魔法つて便利。これでみんな困らせることがで
きるんだ。」

魔女「ダメよ。そんなことしちゃ…」

少女「なに言つてゐの? あなたも散々やつたんでしょう?」

魔女「……あなたはダメ! こんなことしちゃダメダメだよ…

ポロッ…ポロッ…

少女「魔女が泣いてる? 笑えるわね。決めた。あなたに代わつてみ
んなを困らせてあげる。それじゃあね。魔女さん。」

魔女「待つて! 待つて! …

ギイッ
バタンッ

魔女「う、う、う、う…私…とんでもない」と…」

魔女は自分のしたことに後悔しました。

もう心やせしい女の子はいない。

いたのは、どんな人も動物もお花も困らせてしまつことが大好きな
魔女だった…・・・

そしていま…・・・

魔法使い「そして、私は人のために生きる魔法使いになりました。
お願ひ！もうこんなことはやめて！」

魔女「あなたがあの時の魔女… そういえば、そうだったわ。あなた
のおかげで魔女になれたんだつたわ。それなのに困らせるこことをや
めろだなんて。無理！……あつ、さてはあなたね。私の邪魔をした
の！」

魔法使い「私がしたのは赤ずきんの家近くでなにがあつても大丈夫
なように見守つたり、ウエカの花を咲かせたり、ガラスの靴のなお
し方をおしえたり、お姫様の呪いを解いただけよ。」

魔女「…どうしても、邪魔するんだ… なら、もうこの国を出て別の
国の人を困らせてやるんだから。」

魔法使い「させません！」

ビュン

魔女「！なつ！… 篠が！」

魔法使い「篠を使ってとぶのは無理よ。おとなしく…」

魔女「諦めない！私はこの国をでるんだ！」

そう言つと、勢いよくお城を出て行きました。

魔法使い「待つて… お姫様の呪いが強力になつてた… あの子をな
んとかしないと、お姫様の呪いは解けない…」

魔女「南の門をぬければ、あいつも追つてこないだろ。」

そして、謎の存在が・・・

？？「ハンター10体転送」

門の向こう側に10体のハンターが転送された・・・

逃走者に新たなミッションが立ちはだかる！

～魔女となるこれまでの出来事～（後編）

波乱のリラックサンが始める・・・

MISSION4…？（前書き）

ミッションが始まる・・・
しかし、予想しない展開が・・・

MISSION4...?

明日菜「もう…町はビニール…」

ピリリッピリリッピリリッ

明日菜「わっ！？」

メールだ…

明日菜「びっくりするつて…ミシショソ4だ。」

裕奈「『お城の西の塔の頂上にお姫様がいる。お姫様は残り10分になると、』」

勇次「『東の塔の頂上に入りハンターを10体エリアに放出する。』『10体！？』

美砂「多いよ！10体は…『阻止するには、君たちが持つ鍵を使って鍵をかけなければならぬ。急ぎたまえ。』」

MISSION4

10体ハンター放出を阻止せよ…

お城にある西の塔の頂上にはお姫様がいる。

お姫様は糸車を目指して東の塔に向かう。

残り10分に東の塔に到着するとハンターが10体エリアに放出される。

阻止するには、

逃走者の持つ鍵をつかい、東の塔に鍵をかけなければならぬ。

アキラ「とりあえずお城に行かないと。」

紀梨乃「10体はキツいよ。」

だが、

これはまだ序の口だった・・・

ピココシッピココシッピココシッ

亜子「なに?」

メールだ・・・

亜子「だれか捕まつたん?...うそ...ミシシヨン5?..」

裕奈「えつ!~もう1つミシシヨン!~?」

紀梨乃「『魔女が南にある門を抜けて国から逃げようとしている。』

』

亜子「『しかし、門が開けば10体のハンターがエリアに放出される。』『ええ!~また10体!~?』

都「やつきとあわせて20体?『そでしょ?』阻止するには、町にいる門番から錠をもらい鍵をかけなければならない。』

明日菜「…えっと、ビックリ」と。」

MISSION 5

南の門を閉じろ！

魔女がこの国から逃げるために南の門を指す。

残り10分になると、

魔女が門を開けてハンター10体をエリアに放出する。

阻止するには、

町にいる門番から錠をもらい鍵をかけなければならぬ。

美砂「2つのミッション…ビックリ止めないとヤバイ。けど、ビ
っちも行くなんて出来ないよ。」

南の門とお城までの距離はかなりあるため、

2つのミッションを一人でやるのはほぼ不可能だ…

ゲーム終了まで

およそ20分・・・

ミッション終了まで

およそ10分・・・

逃走者たちの運命は・・・

MISSION4…？（後書き）

史上初ダブルミッション！

この展開に逃走者たちは
どうするのか・・・

クライマックスに近づきました。

みなさんお待たせして
申し訳ございません。

前代未聞のダブルミッションに逃走者はどう挑むのか・・・

MISSHOZ4&5 (1)

都「…お城…お城に行こう!…門は任せよ!」

亜子「お城の方が近いし…お城に行こう。」

紀梨乃「偶然にも城の庭園…近い方に。」

都、亜子、紀梨乃は
お城のミッションへ…

アキラ「…門の方が大変そうだから、町に行こう。」

裕奈「門番探さなきや…」

勇次「お城は誰か行つてゐはずだから…門番の人を探そう…」

美砂「…………」町だし…門番を探して早く門閉じないと…

アキラ、裕奈、勇次、美砂は門のミッションへ向かう…

だが…

明日菜「…お城…町つてど…」

明日菜はまだ道に迷っていた・・・

牢獄では・・・

和美「こんなのは初めてだよー」ミシショソが同時に2つ来るなんてー」

まき絵「どうなつちやうの?どうなつちやうの?」

夕映「厳しいとしか言えませんね」クリアするには連携が必要かと

・・・

木乃香「かなりきびしいなあー」

紀梨乃「急いでーー一つクリアすれば、もう一つの方にみんな集中で
できるし。」

お城のミッションに挑む紀梨乃・・・
ミッションへの作戦を考えている・・・

紀梨乃「鍵は最初のミッションのだよね・・・」

しかし・・・

近くにいたハンターが紀梨乃を見た・・・

だが・・・

紀梨乃「急がないとー」

紀梨乃はハンターに気づいていない・・・

距離が縮まり・・・

ピ――――

紀梨乃「.....！わっ！？」

ボワン

千葉紀梨乃確保

残り7人

残り時間 18分44秒

紀梨乃「.....うそ.....気づかなかつた。」

ハンターの注意を考えてなかつた・・・

都「えつ、うそ！庭園付近で！？」

勇次「部長が捕まつた！」

裕奈「ヤバすぎる.....いや、急がないとダメだつて！」

都「もう近くなのに、ハンターがいるってわかつちゃつたから・・・

確保情報を知つてから動けなくなつてしまつた都・・・

亜子「...どないしょ。怖い...」

亞子も同じだ・・・

明日菜「……やつた！町だ！」

よひやく森から抜け出た明日菜・・・

明日菜「え、と…門番を探しに行けばいいのよね？」

南の門のミッションに挑むようだ・・・

都「…行かなきや、何も出来ない…よしつー。」

お城の中を団指す都！

一気に走り抜ける！

都「……やつた！入れた！塔の入口は？…」つち？つちだ。EA
STつて書いてる。」

扉は階段の先にある・・・

都「この階段をのぼるの？」

階段はかなりある・・・

勇次「…門番つてどんな人だろ？。」

町の中にいた勇次・・・

門番を探すが、誰が門番かわからない・・・

美砂「考えたら、門番ってどんな人か知らなかつた。どの人だろつ
・・・」

同じように悩む美砂・・・

勇次「うーん、あの人に聞いてみるか・・・」

町の人に尋ねる勇次・・・

勇次「すみません。」

？？「ん？」

勇次「！えつ！？先生？」

？？「先生？俺は先生じゃないよ。ただの門番だ。」

勇次「えつ！？」

なんと、

尋ねた人が門番だった！

勇次「あの、南の門の門番なんですか？」

門番「ああ、そだが・・・」

勇次「突然なんですが、錠をいただけませんか？」

門番「錠？…なぜだ。」

勇次「魔女がこの国から逃げようとしてるんですよ。それを阻止しないと…」

門番「なんだつて…？それは一大事だ…」

勇次「そうなんですよ…」

門番「錠だな？魔女対策用のは…」」いつだ。」

勇次「これですか？」

中田勇次　錠入手

門番「これさえ取り付ければ大丈夫だ。」

勇次「ありがとうございます！」

南の門へ急ぐ勇次！

ミッション終了までおよそ7分

果たして、

ミッションは成功するのか？

順調にことが運んでいる・・・
だが・・・

MISSHOWZ4&5 (2) (前書き)

ミシシッパンに挑む逃走者たち . . .
このままクリアできるのか . . .

MISSHOZ4&5 (2)

都「……まだ……階段が……続いている……の？」

疲労困憊状態の都……
頂上までもう少しだ……

勇次「南の門……」

門番から錠をもひつた勇次も門へと向かう……

アキラ「……門番つて……どいだらう。」

門番を探すアキラに……
近づく影……

アキラ「……！……キャツ！」

明日菜「わっ……」

明日菜だ……

アキラ「……ビックリした。」

明日菜「ビックリした～もう～」

アキラ「……明日菜も門番探してゐるのか？」

明日菜「え？ アキラも？」

アキラ「こっちにそれっぽい人はいなかつたけど… 明日菜は？」

明日菜「わたしは… 森から出たばつかだから…」

アキラ「じゃあ、あっちを… ハンター…！」

明日菜「わーつ…！」

ハンター急接近…

ピ――――

アキラ「…！」

ハンターが視界に捕らえたのは…

ピ――――

明日菜「来ないでーつ！ いやつ！…！」

ボワン

神楽坂明日菜確保

残り6人

残り時間 15分45秒

アキラ「危なかつた…！」

明日菜「…わたし… なにもできなかつた…」

足しか引つ張つてなかつた・・・

裕奈「あちやー、明日菜…」

アキラ「明日菜…捕まつた…」

美砂「…あの人…門番の衣装つぱい…」

美砂が見つけたのは・・・

美砂「あの…」

? ? 「? …なにかな?」

美砂「あれ！？ 今度は高畑先生？」

? ? 「高畑？ 誰だい？」

美砂「え…と…門番さんですか？」

門番「いかにも、僕が門番だが…」

もひー人の門番だ・・・

美砂「…やつた！…あの…錠をください…」

門番「錠？…なんでもまた。」

美砂「えーと、魔女がこの国から逃げ出さうとして…」

門番「…なるほどね。わかつた。…魔女対策用の錠だよ。」

柿崎美砂 錠入手

美砂「やつた。ありがとうございます…」

門番「あつ、待つた！」

美砂「？…はい？」

門番「じつはこの錠2つないと効果がないんだよ。」

美砂「え！？2つ…？」

じつは、

勇次と美砂の持つ錠は2つそろってはじめて効果があらわれるものであり、

1つだけでは全く意味がない。

しかも・・・

美砂「え？もう一つは…」

門番「すまないけど、僕ら1つずつ管理してるから…」

門番は錠を1つしか持っていない…・・・

美砂「…ということはもう1人探さなきやいけないの？」

いや・・・

勇次「・・・時間・・・ヤバイな。」

もう一つは勇次が持つている・・・

しかし・・・

門番A「あつ・・・やべつ・・・もう一つ錠が必要って言つて忘れてた
!-!-」

勇次は錠がもう一つ必要なことは知らない・・・

美砂「・・・あれ?ひょっとして...」の錠なくしたら... // ッシヨンクリ
アできない?」

その通り・・・

門番が持つ錠は一つずつ・・・

失くすことはできない・・・

責任重大だ・・・

美砂「...どうしよう。急に緊張感が...」

フレッシャーのせいか震えだす美砂・・・

クリアできるのか・・・

都「……はあ～……やつと着いた。」

よつやく東の塔の頂上にたどり着いた都・・・

都「鍵穴は……あつた！」

力チツ・・・

都「やつた！」

ミッショングクリア・・・

都「……あれ？ 最後まで鍵がまわらない？ なんで？」

では、なかつた・・・

都「なんで？……えつ、まさか！」

都が何かを見つけた・・・

それは・・・

都「鍵穴もう一つある・・・」

もう一つの鍵穴だった・・・

都「……もしかして、鍵2つないと鍵かからない？」

じつはこの扉・・・
泥棒よけなどもかねて、
鍵を2つにわけていた・・・
ゆえに、

2つないと鍵を開けることもかけることもできない・・・

都「どうしよう……誰かに来てもらひうしか」

そのとき・・・

? ? 「着いた！…あれ？もう終わりました？」

都「！…あつ！和泉さんよね。」

亜子「はい・・・」

亜子が頂上にたどり着いた！

都「鍵！鍵出して！…」

亜子「は、はい・・・」

都「そつちの鍵穴をおねがい！」

亜子「はい・・・」

事情も知らないまま、

都にしたがう亜子・・・

都「行くわよ。」

田子「せー…」

都「せーのつ！」

力チャンツ

ミッションクリア

都鍵かかつた！ はあゝ、良かつた

まさに、渡りに船だ・・・

里子「...? えと、クリア... したんかな?」

ミッションクリアだ……

都一ありかとう。助か二たわ。

里子：え？ いえ もう 行きますね。

亞子「はい…それじゃあ…」

別れる2人・・・

これで2つ目の「シマミソ」の内、一つがクリアとなつた。・・・

残る//芝ショソもクリアできるのか・・・

//芝ショソ終了まで4分をきつた・・・

MISSION 4&5 (2) (後書き)

ミッションを一つクリア・・・
もう一つもクリアできるのか・・・

東の塔をクリアした逃走者たち・・・
残るは南の門・・・

MISSION4&5 (3)

美砂「……どうしたらいい？時間が迫ってるし…錠持てるし…もう一つないと意味ないし…」

フレッシュナーのせいが、
パニックになりつつある美砂…

ピリコリッ

美砂「…も…なに？裕奈だ。」

ピッ

美砂「もしもし？」

裕奈「ねえ、錠手にいれた？」

美砂「うん、持ってるよ。」

美砂「待つて待つて！」

裕奈「じゃあ、もう大丈夫じゃん。」

裕奈「なに？」

美砂「もう一つないと意味無いんだって。」

裕奈「えつ…？もう一つ必要つてこと？」

美砂「そう。だから、裕奈も探して！」

しかし・・・

ハンター・・・

裕奈「わかつた！」

美砂「お願いね！」

ピ――――

見つかった・・・

ハンターが視界に捕えたのは・・・

裕奈「・・・ヤバい！！」

ピッ

美砂「あれ？切れた・・・」

裕奈だ・・・

裕奈「イヤア――ツ、やめて――――つ――！イヤツ――！」

ボワン

明石裕奈確保

残り5人

残り13分29秒

裕奈「く～や～し～～つ～せつかく、復活したのに…」

美砂「どうしよう…裕奈も捕まっちゃったし…」

電話していた矢先の出来事に動搖する美砂…

美砂「…やだ…もうやだよ」

かなりヤバい状態だ…

アキラ「…電話を。」

電話の相手は…

ピリリリッ

勇次「ん?」

勇次だ…

ピッ

勇次「はい。」

アキラ「大河内です。ミッションビッグ行つてます?」

勇次「門のほうに今向かつてます。」

アキラ「えつ？じゃあ錠も…」

勇次「門番さんから1個もらいましたよ。」

アキラ「わかりました。がんばってください。」

勇次「はい。」

ピッ

アキラ「…中田さんやつてた。」

だが、
2人とも錠が2つないと
クリアできることを知らない…

亜子「…門は大丈夫なんかなあ？」

東の塔のミッションをクリアした亜子…
まだ城の中にいた…

亜子「…あれ？…あの人があ姫様？どつかで見たような？…ま
あ、ええか。」

都「…そろそろ出発しよう。」

休憩をとっていた都もよつやくお城を出よつとしていた…

都「出てすぐハンター来たら最悪だなあ～」

アキラ「……あれは？」

アキラの視線の先にいたのは・・・

美砂「…もうやだよ。」

美砂だ・・・

アキラ「…柿崎？」

駆け寄るアキラ・・・

アキラ「柿崎？」

美砂「！…アキラか？」

アキラ「どうした？」

美砂「…もうやだあ～」

アキラ「？」

美砂「ミシシヨンクリアできないよ～無理だよ～（泣）」

アキラ「落ち着いて！なにがあつた？」

美砂「……」

アキラ「…えつ…？それって…」

美砂が取り出したのは
ミシシヨンに必要な錠…・・

アキラ「…なんで2つも…」

美砂「2つないとクリア出来ないの～裕奈にお願いしたら捕まっちゃつたし…どうしよう…（泣）」

アキラ「…2つ必要なのか…？」

美砂「…うん……あれ、さつき2つもって言つたよね？」

アキラ「大変だ…中田さんその事知らないんじゃ…」

美砂「中田さん？」

アキラ「柿崎！急いで、門に行こ！」

美砂「えつ…？でも…」

アキラ「中田さんが錠を持つてるんだ。急がないと本当に間に合わなくなる。」

美砂「…中田さんが…？本当に…？」

アキラ「せつとき電話したから…」

美砂「…本当に?」

アキラ「本当。」

美砂「うん(泣)」

アキラ「いつしょにいるから、急いでー。」

美砂「うん(泣)」

勇次「…あれが門か。」

南の門にたどり着いた勇次・・・

勇次「…よつーと…」

門を閉じて・・・

勇次「ここだな…」

錠をかける!

力チンツ

勇次「やつた…」

ピリリリツ

勇次「ん?電話?大河内さんだ。」

ピッ

勇次「はい。」

アキラ「中田さん、ミッションなんですか？」

勇次「あつ、いま錠をかけましたよ。」

アキラ「それが、錠は2つないと効果がないみたいで…」

勇次「えつー? 2つ?」

アキラ「いま柿崎といつしょにもう一つの錠をそつちに持つていきます。あとはまかせてください。」

勇次「…わかった。僕もここで待ってる。がんばって！」

ピッ

アキラ「…がんばろう。もう少しだ。」

美砂「うん。」

ミッション終了まで2分をきっていた…。
はたして、間に合つのか…。

時間が迫る・・・

美砂とアキラは間に合ひのか・・・

逃走者たちの、

そして、

魔女とお姫様の運命は・・・

MISSHOZ4&5 (4) (漫畫セ)

時間が迫る・・・
間に合ひのか・・・

MISSION 4 & 5 (4)

ミッション終了まで 1分30秒

もう一つの錠を持つ美砂・・・

美砂「はあ・・・はあ・・・」

そして、

アキラ「南の門までもう少しだ・・・」

アキラといっしょに南の門へ向かっている・・・

美砂「もう時間的に・・・ヤバいよね。」

ミッション終了まで 1分

アキラ「大丈夫・・・もうすぐだ・・・」

勇次「・・・2人とも大丈夫かな?」

2人が来るのを待つ勇次・・・

間に合わなければ10体のハンターに確保される危険がある・・・

ミッション終了まで 45秒

勇次「誰か来た！」

勇次が見たのは・・・

美砂たちか・・・

魔女か・・・

ハンターか・・・

アキラ「あつた！」

美砂「やつた！」

美砂たちだ！

勇次「こっち！急いで！」

アキラ「柿崎、準備してる？」

美砂「大丈夫！」

ミッショソ終了まで30秒

美砂「…着いた！…ここね。」

もう一つの錠を

力チャンツ

かけた・・・

ガチャンツ！ガチャンツ！

美砂「…これでいいの？」

勇次「…大丈夫みたいだ！」

アキラ「一応離れた方がいいかも…」

勇次「2人ともここから離れて！」

そして、

魔女「ようやく…」

魔女が現れた・・・

魔女「早くここから…」

パアーツ

バチンツ

魔女「…うつ…？門に触れない！？」

ダブルミッショングクリア

そして、

東の塔でも
・・・

姐姐

お姫様が塔の頂上に入る事が出来なかつた。・・・

ପ୍ରକାଶକ ପରିଷଦ

美砂「メール？どうなつた？塔は？」

アキラ「…『和泉亜子と宮崎都の活躍により、東の塔のハンターの放出を阻止。』」

都「『柿崎美砂と中田勇次の活躍により、南の門のハンター放出を阻止。』」

「シラクノクノコアヤー。」

牢獄では・・・

和美「ダブルミッショングリーアー！」

全體「おお~~~~~！」

段十郎「やつたぜー!!ヤ!!ヤー・ゴージー」

裕奈「亜子もす」」」」

円「美砂やるじやん」

勇次「やりましたね。」

美砂「……良かつた」」」

アキラ「……！ハンター來た！」

勇次「えつ！」

美砂「こんなとき」」」？」

3人の近くにハンターが・・・

勇次「……よしつ」

美砂「ダメ！」

勇次「えつ？」

美砂「囮なんてダメです。させません。」

勇次「……しかし。」

アキラ「…………（口の中に）来てる…………だつたら……）」

アキラが茂みから飛び出た！

ハンターがアキラを追う！

美砂「！アキラっ！－！」

勇次「…………逃げよう。」

美砂「でも……」

勇次「彼女の気持ちを考えて！……君もわかるはずだよ。」

美砂「…………ゴメン……アキラ」

アキラ「…………くつ…………速いつ！」

勇次と美砂を助けるために困となつたアキラ…………

アキラ「…………もう…………大丈夫かな。」

役目を果たし、
ハンターに……

ボラン

大河内アキラ確保

残り4人
残り9分11秒

確保された・・・

アキラ「・・・がんばってね。」

かつこよく散つた・・・

美砂「・・・アキラ...、ゴメンね。」

勇次「...すみません。」

残り4人・・・

ゲーム残り時間も10分をきつている・・・

逃げ切れるのか・・・

MISSZONE4&5(4)(後書き)

無事にクリアできた逃走者たち・・・
ゲーム終了まであと少し・・・

ゲーム終了！（前書き）

ゲーム終了です！
生き残るのは誰か？

ゲーム終了！

ゲーム終了までおよそ8分・・・
残る逃走者は4人・・・

都「……いないね。……ふう～」

城から出た都・・・

ハンターに警戒中・・・

都「ここまできただから、逃げ切りたい！」

亜子「ウチがここまで残れるなんて・・・」

お城から出た亜子は森に身を潜める・・・

亜子「ハンター来んといて・・・」

勇次「……情けないなあ……大河内さんに助けてもらつて……僕が行くべきだったよなあ。」

自分よりも人のことを考える勇次・・・

アキラの確保に罪悪感があるようだ・・・

美砂「アキラ……」

美砂もまた罪悪感を感じていた・・・

美砂「私ってひどいやつだな…助けられてばかりだし…（はじめは）ミシシヨンやうとしなかつたし…」

都「嫌悪になつてゐ・・・

都「…残り6分ね。」

庭園に身を潜める都の近くに・・・

都「…ヤバッ…いる…」

ハンター・・・

しかし、

気づいていないようだ・・・

都「今のうちに…逃げよう…」

隙をついて庭園から出ようとする都・・・

しかし、

庭園の外にもハンターが・・・

都「…よし。」

都はもう一体のハンターに気づいていない・・・

都「……つもでしょつー？」

もう一休のハンターに気づかれた・・・

都「最悪っ！！」

庭園のハンターも都に気づいた・・・

都「もー無理じゃん！！」

あやめた・・・

宮崎都確保

残り時間 4分42秒

怒りの叫びた

和美「宮崎都確保！」

段十郎「くそーーつ！ハンターめ！ー！」

勇次「あと3人...」

亜子「離れて良かつたわあ。」

美砂「…私と中田さんと亜子だ。」

和美「…のままいけば3人とも逃げ切れるんじゃない？」

裕奈「いけるいける！…！」

ハルナ「3人ともがんばれーーっ！」

亜子「…」のまま南に行こかな？」

南に向かう亜子…・・・

その先には…・・・

美砂「…亜子だ。」

美砂がいた…・・・

亜子「美砂やん。」

美砂「…もう少しだね。」

亜子「?元気ないけど…どうないしたん?」

美砂「…べつに。」

亜子「ほんま?」

美砂「……」

亜子「なんかあつたん?」

美砂「……わたしは人に助けられてばつかしだつて思つただけだよ…
1人じやダメだつて思つただけ…」

亜子「?」

美砂「アキラに助けられて……にいるから…」

亜子「……そやつたんや。」

美砂「わたしつてひどいよね…」

亜子「……ウチは。」

美砂「?」

亜子「アキラに電話かけたせいで…アキラ捕まつてしまつて…」

美砂「……そつ…だつたの?」

亜子「うん…それに…」

美砂「?」

亜子「ウチも1人やつたらアカンもん。裕奈がいて、アキラがいて、

まき絵があるから……3人がおらんと……つうと、みんなおらんと……美砂にもいてほしいし……」

美砂「……（わたしも円が……桜子がいるから……それに亜子も……）亜子が頼もしく見える。」

亜子「……どういつ意味や……」

美砂「えへへ……逃げ切らう。」

亜子「……もううんや。」

勇次「もうすぐだ。柿崎さんと和泉さんは大丈夫かな。」

人の心配をする勇次……

勇次「復活してる以上、部長のためにも逃げきらないと……」

唯一残つた復活者でもある勇次……

勇次「……いる……ひちに来そうだな。」

ハンターを田撃した勇次……

見つかる前にその場を離れる……

しかし……

勇次「！来た！……」

見つかつた・・・

勇次「まずいぞ…」

七

中田勇次確保

残り時間1分5秒

勇次 あつこ 部長すいません

ゲーム終了まで1分

和美「あつ」中田勇次確保!!

全員「え~~~~~っ！-！」

紀梨乃「ユージ君も捕まっちゃった？」

ハルナ「もう一分きつた！！」

まき絵「2人ともがんばれーーっ！！」

美砂「中田さんも捕まっちゃったから…」

亜子「ウチらだけや…」

いつしょに行動する2人…

ゲーム終了まで30秒

亜子「…もう少し。」

美砂「お願いハンター来ないで…」

牢獄全員「25…24…23…22…21…20…19…18…1
7…16…15」

ゲーム終了まで15秒

美砂「もうすぐ…」

亜子「もうすぐや…」

牢獄全員「14…13…12…11…10…9…8…」

美砂、亜子「7…6…5…」

牢獄全員「4…3…2…1…0…」

逃走成功

和泉亜子 96万円

柿崎美砂 96万円獲得

美砂「マジで！？」

「ホンマでー?」

美砂、亜子「ヤツターネツ！-！」

和美「『ゲーム終了。和泉亜子・柿崎美砂逃走成功』！」

牢獄全員「ヤツターネツ！」

おれ給「あ」——「!..」

円一美砂一一つ！すごいぞ一一つ！！」

美砂「すごい！」

「金…重…」

美砂、亞子「96万円！！」

美砂「獲つたぞ——つ！」

亞子「獲つたでーーっ！！」

牢獄全員「2人ともおめでとーーつーー！」

そして・・・
おじやの國の事件は・・・

ゲーム終了！（後書き）

亜子と美砂

おめでとーっ！

そして、

事件も完結へ・・・

～ハジーハジ～おじいの国の事件～（前編）

結末をむかえるおじいの国の事件・・・
彼女たちの運命は・・・

～ハッシュペーパード～おとぎの国の事件～

南の門では・・・

魔女「くつ...ダメだ」

魔女が魔法を使つても門を開けることができないでいました。

魔女「...逃げないと...でも...どうへ?」

魔法使い「よけやく追ついたわ...」

魔女「...一つの間に...?へ?」

ジャララッ

魔女「あうつー?」れば...鎖...」

魔法使い「観念なさい...」

魔女「う、うるせー...お前の言つことなんか聞くもんかー...こんな鎖!ー!」

魔法使い「...」

魔女「!?なんで?魔法が...つかえない!?」

魔法使い「あなたの魔力は私がいただきました。」

魔女「なつー？」

魔法使い「……お姫様の呪いもこれで解けたでしょう。」

魔女「なんだとー？」

お姫様「…………あれ？わたし……どうしてこんな感じで？」

魔女「そんな……」

魔法使い「いまあなたを元に戻すわ……」

魔女「……やめろっ……やめてっ……わたしがわたしで無くなるつ……お願いだ……」

魔法使い「わたしは……元は魔女……嫌なことをするのが大好きなの……あなたにとつても嫌なことをしてあげるわ……！」

魔女「……いやあ————つ……！」

ピカ——ツ

辺りを強い光が包みました。

そして、

そこにいたのは……

少女「……うーん……わたし……？」

心優しい少女でした。

少女「…………あ、ああ……わたし……みんなに…………」

少女はこれまで自分が魔女となり様々な嫌がることをやつたことを思い出していました。

少女「うつ……うつ……」あんなやつ……めんなさくわたし……わ
たしつ……」

ギュツ

少女「……えつ！？」

少女が顔をあげると
そこには・・・

少女「…………魔女さん…………ううん、魔法使いさん…………」

魔法使いが少女を抱き締めていました。

少女「…………魔法使いさん…………違うよ…………全部わたしがした事だよ。魔

「…たまつしまして…」

魔法使い「……（フルフル）私は所詮魔女のまま……結局……最後はあなたを悲しませた……罪深い魔女よ……」

少女「……そんな……待つて……最後つて……どうこつ意味なの？」

魔法使い「……本当は人の心を変えてしまつ魔法は禁じられた魔法なの……それを私は2回もしてしまつた……もつすべ……命が死んでるわ……」

少女「……えつ？」

ドサツ

少女「魔法使いさん……」

魔法使い「……うつ……」

少女「わたしのため」……そんなり……そんなり……どうして？」

魔法使い「……あなたなら……わかるはずよ……心優しい……あなたなら……」

少女「……好きだから？」

魔法使い「……（「クツ」）……初めて……」

少女「えつ？」

魔法使い「……私を……好きって……そんな言葉……言われたこと無かつたから……嬉しかった……とっても……だから……あなたを……命にかえても……元のあなたに……戻すって……」

少女「……魔法使いさん……」

魔法使い「……でも……結局……わたしは……魔女に……戻ってしまった……」「めんなさい……悲しい……思いを……わせて……」

少女「……死んじゃダメ……みんなを……幸せにする魔法使いさんで……みんな悲しむよ……だから……」

魔法使い「……（ニコニコ）あっがとう……」

魔法使いの目が閉じた……

少女「……魔法使いさん？……魔法使いさんー？」

もう・・・
息をしていなかつた・・・

少女「……うつ……あのとき……わたしと会わなかつたら……こんなことに……ならなかつたの……」

少女は自分を責めた・・・

少女「……」「めんなさい……魔法使こせよ……」「めんなさい……」
そして、
ひたすら謝り・・・

少女「……うえつ……ええへへん……」

泣いた・・・

少女「……ぐすつ……神様……魔法使いさんは……わたしのために……わたしのために……命をおとしました……どうか……どうか……魔法使いさんを……助けて……」

ポロッ……ポロッ……

少女「……神様……魔法使いさんを……助けて……ください……わたしは……どうなつても……かまいません……ぐすつ……助けてください……」

そのとき、少女の涙が・・・

ピチヨンッ

奇跡をもたらした。

パア———ッ

少女「つ……なに?」

光が魔法使いを包みこみました・・・

少女「……魔法……使いさん?」

魔法使い「……ひ……」

少女「……魔法使いさん!……わしだよ!……わかる?」

魔法使い「…………わたし…………死んだんじや…………」

「……………」
少女「生きてるよ……………魔法使いさん……………良かつた……………良かつた～～

魔法使い 「…………心配かけて…………ごめんなさい…………ありがとうございます…………あ
りがとう…………」

そして、

魔法使い「…………わたしは…………もう魔女でも…………魔法使いでもないわ。魔法使えなくなつたから…………」

少女「…………」めんなさい…………

魔法使い「?どうして誤るの?」

少女「わたしのせいで……魔法を使えなくなっちゃつたから……」

魔法使い「わたしは……後悔してないわよ。これで良かったのよ。」

少女「でも…」

魔法使い「前にも言つたけど……あなたは優しすぎるわ……だけど、それがあなたのいいところだわ。魔法が使えないっても……みんなを幸せにできる……あなたがそれを教えてくれたのよ……」

少女「？…わたしが？」

魔法使い「ええ。（人を思う心を……ね。）……せついえ、あなたの名前を聞いてなかつたわ。」

少女「わたしも魔法使いさんの名前を聞いてなかつたです。」

魔法使い「そうだつたわね。……わたしの名前は……ハート。」

少女「……わたしの名前は……ピュア。」

ハート「ピュア……いい名前ね。」

ピュア「ハートさん……いい名前。」

ハート「……ピュア。わたしを助けてくれて……ありがとう。」

ピュア「ハートさんも……わたしを助けてくれて……ありがとう。」

こうして、

人を困らせるのが大好きな魔女はいなくなり、
心優しい2人、

ピュアとハートは
おどぎの国で

幸せに暮らしましたとさ。
めでたしめでたし

優しい心がもたらした奇跡・・・

物語はここで終わりです。

だけど、

ピュアとハートの物語は

まだまだ続くのでした・・・

逃走中と物語は終わった…
しかし…

謎の存在…再び…

逃走中は終了した…

しかし、

この様子は…

? ? ? 「… 第2実験… 終了。」

ずっと観られていた…

? ? ? 1 「 今回はいかがでしたか? 」

? ? ? 2 「 … 成功だ」

? ? ? 1 「 本当ですか! ? 」

? ? ? 2 「 うむ、しかし…」

? ? ? 1 「 はい? 」

? ? ? 2 「 急がなければならなくなつたようだ…」

? ? ? 1 「 …… 奴が動くんですか! ? 」

? ? ? 2 「 まだわからん… しかし、早急に対処せねばならん… D よ。」

「

D 「はい！！」

??2 「次のプランを早めるが。」

D 「かしこまりました。」

??2 「急がねば…」

??3 「P殿…」

P 「む……K……いや、いまは…」

K 「薬屋…ですか？」

P 「先に言われたか…」

K (薬屋) 「…今回に関しては彼女…エガ…」

P 「エがいなければ成り立たなかつたな。」

K (薬屋) 「ええ…」

P 「…次のプランに移る。準備が整い次第動いてくれ…」

K (薬屋) 「はい…」

P 「それと種を…」

K 「？」

P「KOUこと名を変えよ。ステップアップだ…」

KOU「ありがとうございます…」

静かな部屋の中…

先ほどの3人の声は聞こえなくなつた…

しかし、まさか…
この様子を観ていた、
別の存在がいたことを
彼らは知らない…

? ? 「動いたほうがいいかもね…フフフ…」

謎の存在…再び…（後書き）

魔法先生ネギまー・& BAMBOO BLADE 逃走中を「」ご覧いただ
きありがとうございました！

皆様のおかげで、

なんとか、完結することができました。

あいも変わらず更新が早いときがあれば、
だいぶ遅いときがありました・・・

たぶんこんな感じで

次回作もやつてここのでしょ？・・・

皆様、本当に

どうもありがとうございました！

次回作予告

とあるマンガアニメのキャラがある場所に集まつた・・・

？？「怖いよな…」

？？「ハンター……驚異的だな……」

？？「ここ大丈夫かな？」

マンガアーメンから17名

マンガアーメンから6名の計23人が参加!!

？？「無いよ…どう？」

？？「こんな」とつて…」

？？「最悪だ…」

逃走者たちに待ち受けるのは…・・・

？？「やっぱいよ…」

？？「どこのなの？」

？？「ハンターが邪魔…」

様々なミッション・・・

？？「……キヤー……ツ…」

生き残る者は現れるのか・・・

そして・・・

? ? 「 もん、 付近にこまます。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5092p/>

魔法先生ネギま！& BAMBOO BLADE逃走中

2011年10月8日10時59分発行